

物性研だより

第36卷
第1号
1996年5月

目 次

所長に就任して	安岡弘志	1
物性研究所談話会		5
物性研ニュース		
○ 東京大学物性研究所 教授公募		6
○ 東京大学物性研究所 助教授又は教授公募		8
○ 東京大学物性研究所 助教授公募		10
○ 東京大学物性研究所 助手公募		12
○ 人事異動		16
○ 平成 8 年度 物性研究所協議会委員名簿		19
○ 平成 8 年度 共同利用施設専門委員会委員名簿		20
○ 平成 8 年度 外来研究員等委員会委員名簿		21
○ 平成 8 年度 人事選考協議会委員名簿		21
○ 平成 8 年度 軌道放射物性研究施設運営委員会委員名簿		22
○ 平成 8 年度 中性子散乱研究施設運営委員会委員名簿		23
○ 平成 8 年度 中性子散乱実験審査委員会委員名簿		24
○ 平成 8 年度 スーパーコンピュータ共同利用委員会委員名簿		25
○ 平成 8 年度 スーパーコンピュータ共同利用課題審査委員会委員名簿		26
○ 平成 8 年度 高輝度光源計画推進委員会委員名簿		28
○ 平成 8 年度 前期短期研究会一覧		29
○ 平成 8 年度 前期外来研究員一覧		30
○ 平成 8 年度 前期スーパーコンピュータ共同利用採択課題一覧		52
○ 平成 8 年度 中性子散乱共同利用採択課題一覧		58
○ 平成 8 年度 後期共同利用の公募について		67
○ 物性研究所物性科学入門講座		91
○ 東京大学物性研究所における大学院修士及び博士課程進学ガイダンスの お知らせ		92
○ テクニカル・レポート 新刊リスト		93
第41回物性若手夏の学校		95
編集後記		

東京大学物性研究所

ISSN 0385-9843

所長に就任して

安 岡 弘 志

竹内前所長の後を承けて所長に就任いたしました。このような重責に十分お答えできるかどうか、甚だ心許ない限りですが物性研究所の一層の発展のために私なりに最善を尽くすつもりでおります。どうか所内外の皆様のご支援とご協力ををお願いいたします。

物性研究所は今重大な転機を迎えております。いわゆる第三世代の物性研究所創成に向かっての改革の議論は、平成元年「将来計画委員会発足」をもって本格化し、早8年の長きにわたろうとしております。幸いにも、今年度組織の改組が認められ、やっと将来計画実現のスタートを切ります。この間、所内外で幾多の討論、検討を重ね、初期には“物性科学のセンター・オブ・エクセレンス”を目指して「センター群構想」を打ち立てました。それは「物性基礎科学に関する最先端の総合研究を行う国際研究所」を中心理念とし、それまでの技術開発指向の研究体制から飛躍し、それらを基礎とした総合的物性科学の研究を先導する事が出来、かつ、国際的にも開かれた新しい研究組織を指向したものでした。これまでの議論の変遷は参考資料1をご覧になって頂くとして、本年度改組された「新大部門制（参考資料2）」も基本的にはこの理念を踏襲したものです。新しく発足する組織の概要是、先端技術による物性測定と物質合成の有機的連携による物質科学の総合的研究を目指す「新物質科学研究部門」、物性物理学における基礎的諸問題に理論的研究を行う「物性理論研究部門」、固体物性の先端的研究領域についてプロジェクト的研究を設定し、新学問領域創成に向かっての先導的研究を展開する「先端領域研究部門」、超低温、超強磁場、超高压等の極限環境下で発現する未知の物性を明らかにし、物質の持つ新しい機能を探る「極限環境物性研究部門」、エネルギーと強度の異なるビーム的性質を持つ分光手段を相補的に用いて先端的物性研究を行う「先端分光研究部門」の5大部門と、中性子散乱法並びに偏極中性子解析法を用いた結晶構造、磁気構造、相転移の微視的機構の解明や新しい中性子散乱法の開発研究を行い、かつ、中性子散乱研究に関する日米協力事業の中核を担う「中性子散乱研究施設」、シンクロトロン軌道放射光を利用した真空紫外・軟X線領域での分光研究と第三世代高輝度光源の加速器・分光測定系の技術開発とその実現を目指す「軌道放射物性研究施設」及び、本年度新設される、理論的な物質設計をもとに先端的な物質の合成、総合物性評価技術をサイクルとした新物性・新機能を持つ物質を開拓することを目的とした「物質設計評価施設」の3附属施設により構成されています。当然の事ながら、それぞれの部門、施設は共同研究、共同利用をより効果的に実施できるように運営される事は言うまでもありません。このように組織は確立されましたが、それぞれの研究プロジェクトに必要な設備や予算等の実質的な肉付けはこれからといったところです。

また、我々が第三世代物性研究所を建設する場として選んだ柏キャンパスへの移転計画も本年度より具体的な段階に入り、一部の研究棟の建築が始まります。

このように走り出した第三世代物性研究所の行く手には幾多の難関が待ちかまえております。例えば、新しい研究をスタートさせるに十分な新キャンパスにおけるスペースと予算の確保、国際研究所にふさわしい運営形態、共同研究や施設利用に対する十分な予算の確保、新キャンパスにおける大学院教育、移転に伴う教職員の生活環境の確保の問題等、数え上げればきりがありません。更に、重要な事柄として、東京大学の全学的支援のもとに推進すべき高輝度光源計画の実現があります。前者は平成9年度物性研究所概算要求の重要項目として要求し、後者に関しては東京大学附置の全国共同利用センターとして構想されている「加速器科学研究センター（仮称）」の先行施設として概算要求する方向で検討が進められております。

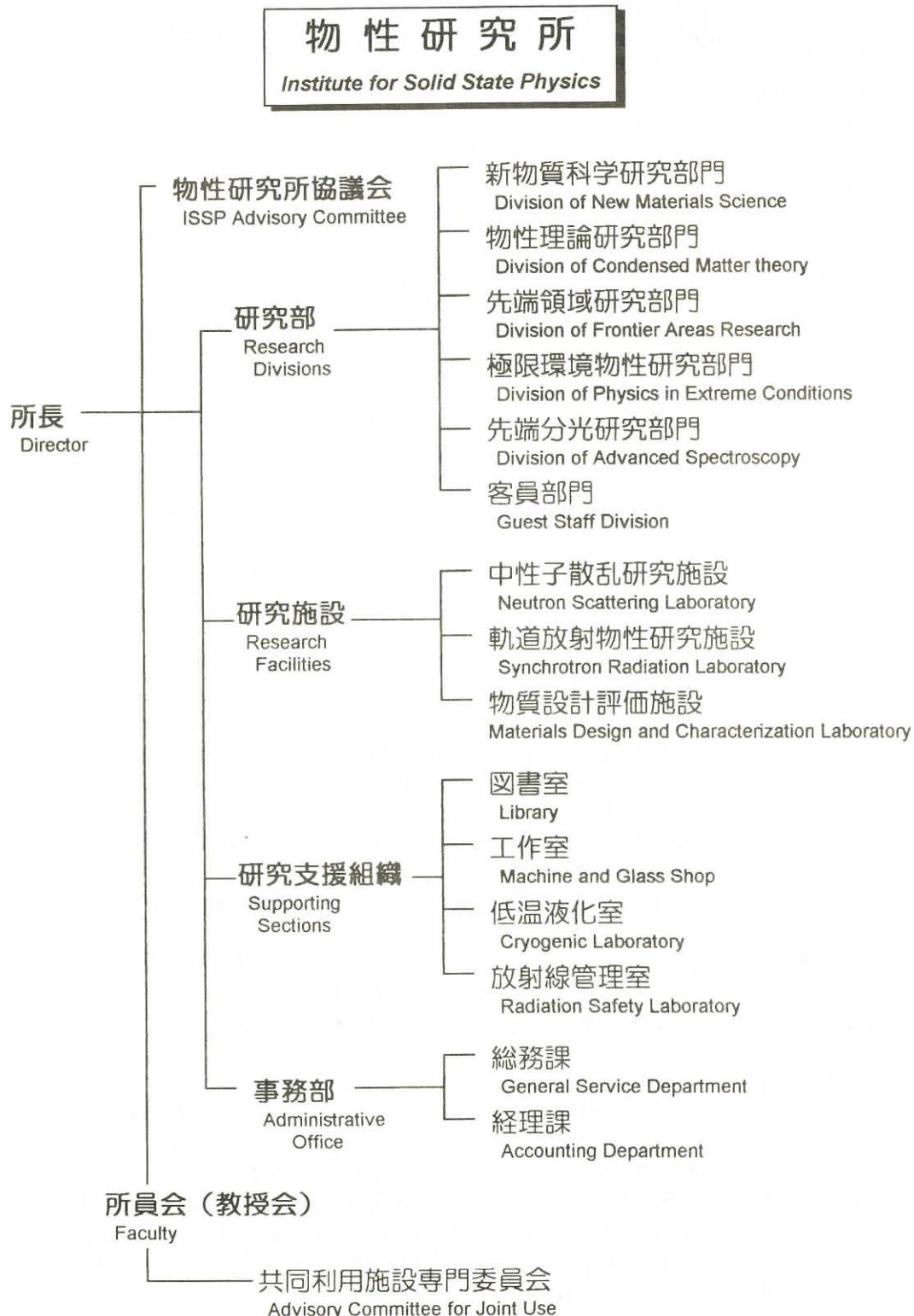
このように計画が実現段階に入った時期には、今まで描いてきた理想と現実の間に大きなギャップを感じるのが世の常です。実際に我々もいろいろな側面で“こんなはずではなかった”という場面に遭遇してきております。しかしながら、内部あるいは外部的な要因による諸々の難関を全力で解決し、少しでも理想に近い第三世代物性研究所を実現させるのが我々の使命であると考えます。このような時期に船頭としての所長の役割は重大で、私に本当にこの重責が果たせるのか、考えれば身の凍る思いがしております。最初にも述べましたように、私なりに最善を尽くすつもりですが、このような大事業は所全体で取り組みいろいろなレベルで構成員が一致協力して実行していくかなくては決して実現しない事は言うまでもありません。そのような体制を確立していく所存ですが、それにもまして、この柏プロジェクトを成功させるためには全国の物性研究者の応援が不可欠です。どうか、物性研究所を自分たちの“掛け替えのない財産”であるとお考えいただき是非ともご支援をお願いいたします。又、今後の物性研究所のあり方について全国の研究者から忌憚のないご意見をお聞かせ頂ければ幸いに存じます。

【参考資料 1】

物性研究所改組計画（移転）に関する検討経緯

- 平成元年10月
- ・物性研究所将来計画委員会発足
- 平成2年 5月
- ・「物性研究所将来計画概要（案）」を公表
- 平成3年12月
- ・物性委員会からの推薦を受けた外部委員が参画した新将来計画委員会発足
 - ・各研究分野で推薦された「外部からの専門家」に対してアンケート調査実施
 - ・物性研究所将来計画討論会開催（物性委員会主催）
 - ・「物性研究所将来計画 中間報告」—物性科学のセンター・オブ・エクセレンスを目指して— を公表
- 平成4年 9月
- ・第2回物性研究所将来計画討論会（物性研究所主催）
「物性研究所極限物性研究計画成果報告書」を公表
- 平成4年11月
- ・物性専門委員会及び同ワーキング・グループにて検討
- 平成4年12月
- ・物性研究所創立35周年記念シンポジウム「物性科学の将来」開催、
討論内容を公表
 - ・「物性研究所将来計画討論会議事録」「物性研究所将来計画に対して寄せられた御意見について 一所長および将来計画委員会見解」を公表
(物性研だより, 32巻 第5号 1993年)
- 平成5年 2月
- ・「物性研究所将来計画」—研究センター群構想— 公表
- 平成5年 3月
- ・物性専門委員会及び同ワーキング・グループにて検討
 - ・拡大物性委員会（仙台）にて物性研究所将来計画に関連して「物性物理における研究のネットワーク化について」の検討を物性研究所より提案、
両計画について討論
- 平成5年 6月
- ・大型ハドロン計画と物性研究の将来討論会（高エネルギー物理学研究所）開催
 - ・物性専門委員会及び同ワーキング・グループにて検討
- 平成5年10月
- ・拡大物性委員会（岡山）開催
- ・「物性研究所改組計画（要約）」（移転計画の最終案）を公表
- 平成5年11月
- ・物性研究所短期研究会「物性物理の現状と今後の方向」開催、討論内容公表
(物性研だより, 33巻 第5号 1994年)
 - ・物性専門委員会及び同ワーキング・グループにて物性研究所改組計画が検討され承認される。
 - ・物理学研究連絡委員会（物研連）にて物性研究所改組計画が検討されその骨子が承認される。
- 平成6年 1月
- ・物性専門委員会及び同ワーキング・グループにて物性研究所改組を軸とした物性研究拠点整備計画（案）—研究組織のネットワーク— について討論
- 平成6年 3月
- ・拡大物性委員会（福岡）にて物性研究拠点整備計画（案）—研究組織のネットワーク— について討論
- 平成6年 5月
- ・「物性研究所改組計画（要約）」組織形態を一部修正
組織を【8部門（+客員+流動）・4施設・1センター】構成から
【4部門8研究分野（+客員+流動）・4施設・1センター】と変更
- 平成7年 5月
- ・物性研究所改組・拡充計画 平成7年度概算要求
- 平成7年 9月
- ・組織を【5大部門, 3施設（+客員）】に修正、平成8年度概算要求
 - ・高輝度光源計画を東大の全学支援もとに実現する方向を決定。評議会のもとに「加速器科学研究センター（仮称）」に関する懇談会が設置される。
- 平成7年12月
- ・物性研究所研究組織の改組決定の内示

【参考資料 2】



物性研究所談話会

日 時 1996年3月18日(月)午後1時30分～2時30分
場 所 物性研究所 旧棟1階講義室
講 師 Prof. J.A. Mydosh
(所属) Kamerlingh Onnes Laboratory, Leiden University
題 目 Is there a sample size dependence in Kondo
and spin glass systems?

要 旨

The size dependence of electron spin scattering is investigated by means of point contact spectroscopy dV/dI vs V on Kondo [CuMn(0.1 at.%) and CuFe(0.1 at.%)] and spin glass [CuFe(0.1 at.%)] alloys. Using mechanically controllable break Junctions we can study Junctions of various sizes, d 1.5 to 35 nm. For CuMn it is found that the Kondo temperature decreases by many orders of magnitude as d is reduced to the smallest size. This also suppresses the spin glass behavior. However for CuFe the increase of the Kondo temperature is minimal. Recent theoretically attempts to understand our experiments have considered mesoscopic fluctuations in the density of states and the absolute value of the Kondo temperature.

日 時 1996年3月18日(月)午後2時45分～3時45分
場 所 物性研究所 旧棟1階講義室
講 師 Prof. R. William McCallum
(所属) Ames Laboratory, Center for Rare' Earths and Magnetics
題 目 Hole Filling, Charge Transfer and Superconductivity $Nd_{1+x}Ba_{2-x}Cu_3O_{7+d}$
要 旨

Unlike $YBa_2Cu_3O_{7-d}$ (Y123), the Nd - Ba - Cu - O system exhibits a solid solution $Nd_{1+x}Ba_{2-x}Cu_3O_{7+}$ =EB(Nd123ss) for $0.04=F3x=F30.5$. However, the superconducting properties decrease non-linearly for increasing x and T_c can also be varied by lowering the annealing temperature without changing the low temperature oxygen soak. The changes in microstructure and T_c with increasing x are analogous with Y123 with increasing d , yet for fully oxygenated Nd123ss samples, Electron Energy Loss Spectroscopy(EELS) demonstrates that the total hole concentration is constant for all x . The neutron diffraction and the inert gas fusion analysis support an overall charge balance for all x . T_c is modeled in terms of a forced oxygen disorder resulting from Nd³⁺atoms on the Ba sites relocating chain oxygens to antichain sites. The variability in T_c as a function of x and heat treatments can be explained by the number of four-fold coordinated Cu's on the chains which can be varied by differing the amounts of paired and unpaired Nd³⁺ substituting for Ba²⁺, resulting in more or less charge transfer from the planes to the chains.

東京大学物性研究所の教授公募の通知

本研究所は平成 8 年度から改組し、新体制のもとに下記のとおり教授の公募をいたします。適任者の推薦、希望者の応募をお願いいたします。

1. 研究部門名等及び公募人員数

物質設計評価施設 教授 1 名

2. 研究内容

新しく設置された「物質設計評価施設」では、新物質の設計・合成・評価を有機的に連携させて、次世代の物質科学の新展開を図ることを目指している。本公募の教授には、物質合成、物性評価の分野で、専門の研究を発展させると同時に、本施設の機能的運営と共同研究・共同利用体制を確立し、広く全国物性研究者の要望に応えることが要請される。

3. 公募締切

平成 8 年 7 月 15 日（月）必着

4. 就任時期

決定後なるべく早い時期を希望する。

5. 提出書類

(イ) 推薦の場合

- 推薦書（健康に関する所見を含む）
- 履歴書（略歴で良い）
- 主要業績リスト（必ずタイプすること）
- 主要論文の別刷（5編以内）
- 研究業績の概要（2000字程度）
- 研究計画書（2000字程度）

(ロ) 応募の場合

- 履歴書
- 主要業績リスト（必ずタイプすること）
- 主要論文別刷（5編以内）
- 研究業績の概要（2000字程度）
- 研究計画書（2000字程度）
- 健康診断書
- 本人に関する意見書

6. 宛先

〒106 東京都港区六本木 7 丁目22番 1号

東京大学物性研究所 総務課人事掛

電話 03(3478)6811 内線 5022, 5004

7. 注意事項

物質設計評価施設教授応募書類在中の旨を朱書し、書留で郵送のこと。

8. 選考方法

東京大学物性研究所教授会で審査決定いたします。ただし、適任者のない場合は、決定を保留いたします。

平成 8 年 4 月 1 日

東京大学物性研究所長

安 岡 弘 志

東京大学物性研究所の教官公募の通知

本研究所は平成 8 年度から改組し、新体制のもとに下記のとおり教官の公募をいたします。適任者の推薦、希望者の応募をお願いいたします。

1. 研究部門名等及び公募人員数

新物質科学研究部門 助教授又は教授 2 名

2. 研究内容

新組織において、「新物質科学研究部門」では物性測定と物質合成の有機的連携による物質科学の総合的研究を推進する。現在、当部門には、石川、安岡の 2 教授、上田（寛）、加藤、高木、田島の 4 助教授が所属している。本公募の助教授（教授）は、物性測定を中心とした観点から独創的な研究を発展させると同時に、部門内外の教授・助教授と協力し、物性物理の新しい展開を図ることが期待される。

3. 公募締切

平成 8 年 7 月 15 日（月）必着

4. 就任時期

決定後なるべく早い時期を希望する。

5. 提出書類

(イ) 推薦の場合

- 推薦書（健康に関する所見を含む）
- 履歴書（略歴で良い）
- 主要業績リスト（必ずタイプすること）
- 主要論文の別刷（5編以内）
- 研究業績の概要（2000字程度）
- 研究計画書（2000字程度）

(ロ) 応募の場合

- 履歴書
- 主要業績リスト（必ずタイプすること）
- 主要論文別刷（5編以内）
- 研究業績の概要（2000字程度）
- 研究計画書（2000字程度）
- 健康診断書
- 本人に関する意見書

6. 宛先

〒106 東京都港区六本木 7 丁目22番 1号

東京大学物性研究所 総務課人事掛

電話 03(3478)6811 内線 5022, 5004

7. 注意事項

新物質科学研究部門助教授（教授）応募書類在中の旨を朱書し、書留で郵送のこと。

8. 選考方法

東京大学物性研究所教授会で審査決定いたします。ただし、適任者のない場合は、決定を保留いたします。

平成 8 年 4 月 1 日

東京大学物性研究所長

安 岡 弘 志

東京大学物性研究所の助教授公募の通知

本研究所は平成 8 年度から改組し、新体制のもとに下記のとおり助教授の公募をいたします。適任者の推薦、希望者の応募をお願いいたします。

1. 研究部門名等及び公募人員数

先端領域研究部門 助教授 1 名

2. 研究内容

「先端領域研究部門」では、表面物性とメゾスコピック系の量子物性に関する先端的な研究の推進を目的としている。

本公募の助教授には、広い視野から独創的な発想で固体表面の物理あるいは化学に新しい研究領域を開拓することが期待される。

なお、応募者はこれまでの研究分野が表面であることは必ずしも必要ではないが、これまでの研究を積極的な形で固体表面の研究に生かせることが要求される。

3. 公募締切

平成 8 年 7 月 15 日（月）必着

4. 就任時期

決定後なるべく早い時期を希望する。

5. 提出書類

(イ) 推薦の場合

- 推薦書（健康に関する所見を含む）
- 履歴書（略歴で良い）
- 主要業績リスト（必ずタイプすること）
- 主要論文の別刷
- 研究業績の概要（2000字程度）
- 研究計画書（2000字程度）

(ロ) 応募の場合

- 履歴書
- 主要業績リスト（必ずタイプすること）
- 主要論文別刷
- 研究業績の概要（2000字程度）
- 研究計画書（2000字程度）
- 健康診断書
- 本人に関する意見書

6.宛先

〒106 東京都港区六本木7丁目22番1号

東京大学物性研究所 総務課人事掛

電話 03(3478)6811 内線 5022, 5004

7.注意事項

先端領域研究部門助教授応募書類在中の旨を朱書きし、書留で郵送のこと。

8.選考方法

東京大学物性研究所教授会で審査決定いたします。ただし、適任者のない場合は、決定を保留いたします。

平成8年4月1日

東京大学物性研究所長

安岡弘志

東京大学物性研究所の助手公募の通知

本研究所は平成8年度から改組し、新体制のもとに下記のとおり助手の公募をいたします。適任者の推薦、希望者の応募をお願いいたします。

1. 研究部門名等及び公募人員数

極限環境物性部門 毛利研究室 助手1名

2. 研究内容

本研究所では、これまで超高压、超強磁場、超低温のそれぞれの分野で極限技術の開発に努め、極限物性の研究分野において先導的役割を果たしてきた。しかしながら、最近、単一の極限技術では解決できない、未曾有の現象が観察されはじめている。これらの現象を解決するには、超低温・超強磁場・超高压の多重極限環境下での物性研究が欠くべからざるものとなっている。

今回公募の助手には、主として、毛利教授と協力して、超高压技術を主体とした多重極限環境下での物性研究を行うことが要請される。

3. 応募資格

修士課程修了、又はこれと同等以上の能力をもつ人。

4. 任期

5年以内を原則とする。

5. 公募締切

平成8年5月31日（金）必着

6. 就任時期

決定後なるべく早い時期を希望する。

7. 提出書類

(イ) 推薦の場合

- 推荐書（健康に関する所見を含む）
- 履歴書（略歴で良い）
- 業績リスト（必ずタイプすること）
- 主要論文の別刷

(ロ) 応募の場合

- 履歴書
- 業績リスト（必ずタイプすること）
- 主要論文別刷
- 所属の長又は指導教官等の本人についての意見書（宛先へ直送のこと）
- 健康診断書

8.宛先

〒106 東京都港区六本木7丁目22番1号

東京大学物性研究所 総務課人事掛

電話 03(3478)6811 内線 5022, 5004

9.注意事項

極限環境物性部門「毛利研」助手応募書類在中、又は意見書在中の旨を朱書し、書留で郵送の
こと。

10.選考方法

東京大学物性研究所教授会で審査決定いたします。ただし、適任者のない場合は、決定を保留
いたします。

平成8年4月1日

東京大学物性研究所長

安岡弘志

東京大学物性研究所の助手公募の通知

本研究所は平成8年度から改組し、新体制のもとに下記のとおり助手の公募をいたします。適任者の推薦、希望者の応募をお願いいたします。

1. 研究部門名等及び公募人員数

物質設計評価施設 助手1名

2. 研究内容

計算物性物理学の研究を推進するとともに、並列処理計算機を含む物性研究所共同利用スーパーコンピュータシステムの効率的な管理運用体制の構築に協力できる意欲的な研究者を希望する。

3. 応募資格

修士課程修了、又はこれと同等以上の能力をつ人。

4. 任期

5年以内を原則とする。

5. 公募締切

平成8年5月31日（金）必着

6. 就任時期

決定後なるべく早い時期を希望する。

7. 提出書類

(イ) 推薦の場合

- 推薦書（健康に関する所見を含む）
- 履歴書（略歴で良い）
- 業績リスト（必ずタイプすること）
- 主要論文の別刷

(ロ) 応募の場合

- 履歴書
- 業績リスト（必ずタイプすること）
- 主要論文別刷
- 所属の長又は指導教官等の本人についての意見書（宛先へ直送のこと）
- 健康診断書

8. 宛先

〒106 東京都港区六本木 7 丁目22番 1号

東京大学物性研究所 総務課人事掛

電話 03(3478)6811 内線 5022, 5004

9. 注意事項

物質設計評価施設助手応募書類在中、又は意見書在中の旨を朱書し、書留で郵送のこと。

10. 選考方法

東京大学物性研究所教授会で審査決定いたします。ただし、適任者のない場合は、決定を保留いたします。

平成 8 年 4 月 1 日

東京大学物性研究所長

安 岡 弘 志

人 事 異 動

1. 研究部

(辞職・転出等)

所 属	職・氏名	発令日	備 考
凝縮系物性部門	教授 竹内伸	8. 3. 31	停年退職 (東京理科大学基礎工学部教授)
低温液化室	助手 稻田ルミ子	"	停年退職
電子計算機室	助手 中川雅子	"	"
中性子散乱研究施設	助手 門脇広明	"	辞職 (東京都立大学理学部助教授へ)
極限物性第一部門 超 高 壓	助手 高橋博樹	"	辞職 (日本大学文理学部助教授へ)
極限物性第一部門 表 面 物 性	教授 村田好正	8. 4. 1	電気通信大学電気通信学部教授へ
"	助手 高増正	"	金属材料技術研究所へ
新物質開発部門	助手 澤博	"	千葉大学理学部助教授へ
凝縮系物性部門	技官 橋本辰男	"	生産技術研究所へ

(昇任・採用・転入等)

所 属	職・氏名	発令日	備 考
軌道放射物性部門	助教授 中村典男	8. 3. 1	高エネルギー物理学研究所助手より
軌道放射物性研究施設	助手 藤澤正美	"	軌道放射物性研究施設教務職員より
凝縮系物性部門	助教授 田島裕之	8. 4. 1	理学部講師より
極限物性第一部門 極限レーザー	助手 関川太郎	"	採用
理 論 部 門	助手 木野日織	"	"

所 属	職・氏名	発令日	備 考
理 論 部 門	助 手 福 島 孝 治	8. 4. 1	採 用
凝 縮 系 物 性 部 門	技 官 橋 本 義 昭	"	"

(併任)

所 属	職・氏名	発令日	備 考(本務先・併任期間)
	所 長 安 岡 弘 志	8. 4. 1	本務：凝縮系物性部門教授 (11.3.31まで)
中性子散乱研究施設	施設長 藤 井 保 彦	"	本務：中性子散乱研究施設教授 (11.3.31まで)
固 体 物 性 部 門 (客員部門)	助教授 岡 田 耕 三	"	本務：山口大学教育学部助教授 (8.9.30まで)
固 体 物 性 部 門 (客員部門)	助教授 伊 澤 正 陽	"	本務：高エネルギー物理学研究所助教授 (9.3.31まで)

※ 所属は平成8年4月1日現在のもの。平成8年度予算成立後は新部門の所属となる。

2. 事務部

(退職・転出等)

所 属	職・氏名	発令日	異 動 内 容
	事務部長 徳 竹 廣 雄	8. 3. 31	定年退職
経 理 課	会計主任 片 桐 茂 夫	8. 4. 1	大型計算機センター事務長補佐へ
"	施設掛長 村 田 和 男	"	原子核研究所管理掛長へ
総 務 課	共同利用掛長 柳 澤 賢 次	"	東洋文化研究所庶務掛長へ
経 理 課	用度掛契約主任 小 檜 山 克 則	"	国文学研究資料館管理部 会計課管財係長へ
総 務 課	庶務掛主任 高 橋 博 行	"	薬学部庶務掛主任へ
"	図書掛 笠 原 政 宏	"	附属図書館(併任:文部省学術国 際局学術情報課)へ

所 属	職・氏名	発令日	異動内容
経理課	施設掛 島田英明	8. 4. 1	施設部企画課へ

(採用・転入等)

所 属	職・氏名	発令日	異動内容
	事務部長 朝日向吉晟	8. 4. 1	宇宙線研究所事務長より
経理課	会計主任 松原嘉彦	"	教養学部・数理科学研究科経理課 司計主任より
"	施設掛長 田中光次	"	医科学研究所経理課施設第一掛長 より
総務課	共同利用掛長 横田恭	"	統計数理研究所管理部庶務課研究 協力係長より
"	庶務掛主任 海老沢節夫	"	医科学研究所管理課人事掛より
経理課	施設掛主任 尾崎之典	"	東京農工大学施設課設備係より
"	用度掛 篠崎勲	"	科学博物館教育部企画課より
総務課	図書掛 等々力達也	"	採用

平成 8 年度 物性研究所協議会委員名簿

所 属	職 名	氏 名	任 期	備 考
東 北 大 (理)	教 授	遠 藤 康 夫	6. 9. 1~ 8. 8.31	物 研 連
大 阪 大 (工)	"	興 地 斐 男	"	"
慶 應 大 (理工)	"	川 村 清	"	"
大阪大 (基礎工)	"	張 紀 久 夫	"	"
東 工 大 (理)	"	斯 波 弘 行	"	"
大 阪 大 (理)	"	中 村 亘 男	"	化 研 連
東北大 (金材研)	"	庄 野 安 彦	"	
高 工 ネ ル ギ 一 物 理 学 研 究 所	"	木 原 元 央	"	
東 大 (工)	"	藤 原 育 夫	"	
東 大 (理)	"	長 澤 信 方	"	
"	"	塚 田 捷	"	
"	"	太 田 俊 明	"	
分子科学研究所	"	吉 原 經 太 郎	"	
物 性 研 究 所	"	小 谷 章 雄	"	所 員 会
"	"	三 浦 登	"	"
京 大 (基研)	"	関 本 謙	7. 1. 1~ 8. 8.31	
東 大 (工)	学 部 長	岡 村 甫		官職指定委員
" (理)	"	益 田 隆 司		"
" (核研)	所 長	山 田 作 衛		"
" (事務局)	局 長	長 谷 川 正 明		"

平成8年度 共同利用施設専門委員会委員名簿

所 属	職 名	氏 名	任 期	備 考
東北大(理)	教 授	大野公一	7. 4. 1~9. 3. 31	化研連
京大(理)	"	西嶋光昭	"	"
横国大(工)	"	君嶋義英	"	物研連
東北大(金材研)	"	本河光博	"	"
青学大(理工)	"	秋光純	"	"
東大(理)	"	福山秀敏	"	"
京大(理)	"	石黒武彦	"	"
広島大(総合)	"	藤井博信	"	"
京大(理)	"	山田耕作	"	"
高エネルギー 物理学研究所	"	下村理	"	所員会
分子科学研究所	"	小杉信博	"	"
東工大(理)	"	榎敏明	8. 4. 1~10. 3. 31	化研連
東北大(理)	"	遠藤康夫	"	物研連
"	"	倉本義夫	"	"
東工大(理)	"	斯波弘行	"	"
東邦大(理)	"	梶田晃示	"	"
金沢大(理)	"	鈴木治彦	"	"
大阪大(基礎工)	"	菅滋正	"	"
"(理)	"	大貫惇睦	"	"
"	"	宮下精二	"	"
東大(理)	"	壽榮松宏仁	"	所員会

平成 8 年度 外来研究員等委員会委員名簿

役 名	所 属	職 名	氏 名	任 期	備 考
委員長	物性研究所	教授	後藤恒昭	7. 4. 1～9. 3. 31	委員長任期 8. 4. 1～9. 3. 31
所内委員	"	助教授	常行真司	"	
"	"	教授	渡部俊太郎	8. 4. 1～10. 3. 31	
"	"	助教授	小森文夫	"	
所外委員	東北大(金材研)	教授	本河光博	7. 4. 1～9. 3. 31	
"	京大(理)	"	石黒武彦	"	
"	東北大(理)	"	倉本義夫	8. 4. 1～10. 3. 31	
"	大阪大(基礎工)	"	菅滋正	"	

平成 8 年度 人事選考協議会委員名簿

(物研連推薦)

所 属	職 名	氏 名	任 期	備 考
東大(理)	教授	福山秀敏	7. 4. 1～9. 3. 31	
東北大(理)	"	遠藤康夫	"	
慶應大(理工)	"	川村清	8. 4. 1～10. 3. 31	
京大(理)	"	石黒武彦	"	
広島大(理)	"	藤田敏三	"	

平成 8 年度 軌道放射物性研究施設運営委員会委員名簿

役 名	所 属	職 名	氏 名	任 期	備 考
委 員 長	物 性 研 究 所	教 授	神 谷 幸 秀	8. 1. 1~ 9. 12. 31	再 任 7. 4. 1 委員長
委 員	"	"	小 谷 章 雄	"	再 任
"	"	助教授	小 森 文 夫	"	新 規
"	"	"	柿 崎 明 人	"	再 任
"	"	"	辛 埼 塘	"	"
"	"	"	中 村 典 雄	8. 3. 1~ 9. 12. 31	新 規
"	東 大 (核研)	教 授	杉 本 章二郎	8. 1. 1~ 9. 12. 31	"
"	都 立 大 (理)	"	羽 生 隆 昭	"	"
"	立 教 大 (理)	"	檜 枝 光太郎	"	"
"	大阪大 (基礎工)	"	菅 滋 正	"	再 任
"	東 大 (工)	"	尾 嶋 正 治	"	新 規
"	" (理)	助教授	藤 森 淳	"	再 任
"	高 エ ネ ル ギ 一 物 理 学 研 究 所	教 授	木 原 元 央	"	"
"	分子科学研究所	"	小 杉 信 博	"	"

平成 8 年度 中性子散乱研究施設運営委員会委員名簿

役 名	所 属	職 名	氏 名	委員	任 期	備 考
委員長	物 性 研 究 所	教 授	藤 井 保 彦	1号	7. 4. 1～9. 3.31	再 任
委 員	"	助教授	松 下 裕 秀	"	"	
"	"	"	吉 澤 英 樹	"	"	再 任
"	"	"	加倉井 和 久	"	"	再 任
"	"	教 授	石 本 英 彦	4号	"	
"	"	"	上 田 和 夫	"	"	
"	東 大 (原総セ)	助教授	伊 藤 泰 男	2号	"	再 任
"	高 エ ネ ル ギ 一 物 理 学 研 究 所	教 授	池 田 宏 信	3号	"	
"	京 大 (原子炉)	"	宇 津 呂 雄 彦	"	"	再 任
"	東 北 大 (理)	"	遠 藤 康 夫	"	"	再 任
"	東北大 (金材研)	"	山 口 泰 男	"	"	再 任
"	名 大 (工)	"	野 田 一 郎	"	"	再 任
"	京 大 (理)	"	郷 信 広	"	"	
"	慶應大 (理工)	"	若 林 信 義	"	"	
"	日本原子力研究所 先端基礎センター	主 任 研究員	森 井 幸 生	"	"	再 任

平成 8 年度 中性子散乱実験審査委員会委員名簿

役 名	所 属	職 名	氏 名	分 野	任 期	備 考
委員長	慶應大(理工)	教 授	若 林 信 義	B	7. 4. 1~9. 3. 31	再 任
委 員	高エネルギー 物理学研究所	"	池 田 宏 信	A	"	再 任
"	青学大(理工)	"	秋 光 純	A	"	再 任
"	広島大(総合)	"	藤 井 博 信	A	"	再 任
"	東北大(金材研)	"	本 河 光 博	A	"	
"	都立大(理)	"	神 木 正 史	A	"	
"	名 大 (理)	"	佐 藤 正 俊	A	"	
"	東工大(理)	"	斯 波 弘 行	A	"	
"	筑波大(物質工)	"	浅 野 肇	B	"	再 任
"	千葉大(理)	"	野 田 幸 男	B	"	再 任
"	新潟大(理)	"	三 沢 正 勝	B	"	再 任
"	筑波大(物理工)	"	大 嶋 建 一	B	"	
"	京 大 (化研)	"	梶 康 輔	C	"	再 任
"	" (工)	"	橋 本 竹 治	C	"	再 任
"	大 阪 大 (理)	"	片 岡 幹 雄	C	"	
"	日本原子力研究所 先端基礎センター	主 任 研究員	森 井 幸 生	指定	"	再 任
"	物 性 研 究 所	教 授	藤 井 保 彦	指定	"	再 任

(注) A : 磁性・強相関電子系(理論を含む) 分野

B : 構造, 材料, 非晶質, 液体, 化学, (理論を含む) 分野

C : 生物, 高分子(理論を含む) 分野

平成8年度 スーパーコンピュータ共同利用委員会委員名簿

役名	所 属	職名	氏 名	任 期	備 考
委員長	物性研究所	教 授	高山 一	8. 4. 1~10. 3. 31	再 任
委 員	"	"	小谷 章雄	"	"
"	"	"	安藤 恒也	"	"
"	"	"	三浦 登	"	新 規
"	"	助教授	今田 正俊	"	再 任
"	"	"	常行 真司	"	"
"	"	助 手	荻津 格	"	"
"	東大(大型計算機)	助教授	金田 康正	"	"
"	" (工)	教 授	藤原 毅夫	"	"
"	" (養・総文)	"	浅野 攝郎	"	"
"	" (理)	"	塚田 捷	"	"
"	"	"	小柳 義夫	"	"
"	都立大(理)	"	岡部 豊	"	"
"	大阪大(理)	"	宮下 精二	"	"
"	金沢大(理)	"	樋渡 保秋	"	"
"	産業技術融合 領域研究所	首席 研究官	寺倉 清之	"	"
"	名大(工)	教 授	前川 祐通	"	新 規

平成 8 年度 スーパーコンピュータ共同利用課題審査委員会委員名簿

役 名	所 属	職 名	氏 名	任 期	備 考
委員長	物性研究所	教 授	高山 一	8. 4. 1~10. 3. 31	共同利用委員会委員長
委 員	"	"	小谷 章雄	"	共同利用委員会委員
"	"	"	安藤 恒也	"	"
"	"	"	三浦 登	"	"
"	"	助教授	今田 正俊	"	"
"	"	"	常行 真司	"	"
"	"	助 手	荻津 格	"	"
"	東 大(大型計算機)	助教授	金田 康正	"	"
"	" (工)	教 授	藤原 毅夫	"	"
"	"(養・総文)	"	浅野 攝郎	"	"
"	" (理)	"	塙田 捷	"	"
"	"	"	小柳 義夫	"	"
"	都立大 (理)	"	岡部 豊	"	"
"	大阪大 (理)	"	宮下 精二	"	"
"	金沢大 (理)	"	樋渡 保秋	"	"
"	産業技術融合 領域研究所	首 席 研究官	寺倉 清之	"	"
"	名 大 (工)	教 授	前川 祐通	"	"
"	物性研究所	"	上田 和夫	"	

役名	所 属	職 名	氏 名	任 期	備 考
委 員	東 大 (理)	教 授	鈴 木 増 雄	8. 4. 1~10. 3.31	
"	" (工)	助教授	永 長 直 人	"	
"	" (養・総文)	教 授	吉 岡 大二郎	"	
"	東 北 大 (理)	"	倉 本 義 夫	"	
"	"	助教授	酒 井 治	"	
"	埼 玉 大 (理)	"	佐 宗 哲 郎	"	
"	"	"	飛 田 和 男	"	
"	東 工 大 (理)	"	斎 藤 晋	"	
"	"	"	西 森 秀 稔	"	
"	名 大 (工)	教 授	土 井 正 男	"	
"	京都工織大(工芸)	"	川 村 光	"	
"	大阪大 (理)	"	赤 井 久 純	"	
"	" (産業科学研)	"	吉 田 博	"	
"	神戸大(国際文化)	"	鎌 木 誠	"	
"	広島大 (理)	"	城 健 男	"	
"	都立大 (理)	助教授	川 勝 年 洋	"	
"	慶應大 (理工)	"	能 勢 修 一	"	
"	立命館大 (理)	教 授	池 田 研 介	"	

平成 8 年度 高輝度光源計画推進委員会委員名簿

役名	所 属	職 名	氏 名	任 期	備 考
委員長	物性研究所	所長	安岡 弘志	8. 4. 1~	官職指定
幹事	"	教 授	神谷 幸秀	7. 9. 1~ 9. 3.31	軌道放射物性研究 施設長, 幹事任期 8.4.1~9.3.31
委 員	"	"	小谷 章雄	"	
"	"	助教授	柿崎 明人	"	
"	"	"	小森 文夫	8. 4. 1~ 9. 3.31	
"	東大(理)	教 授	壽榮松 宏仁	7. 9. 1~ 9. 3.31	
"	"(理)	"	太田 俊明	"	
"	"(工)	"	合志 陽一	"	
"	"(工)	"	菊田 惺志	"	
"	"(工)	"	中沢 正治	"	
"	"(薬)	"	佐藤 能雅	"	
"	"(先端研)	"	白木 靖寛	"	
"	東北大(理)	"	佐藤 繁	"	
"	高エネルギー 物理学研究所	"	木原 元央	"	放射光実験施設長
"	立教大(理)	"	檜枝 光太郎	"	
"	都立大(理)	"	羽生 隆昭	"	
"	分子科学研究所	"	小杉 信博	"	極端紫外光実験 施設長
"	名大(理)	"	関 一彦	"	
"	大阪大(基礎工)	"	菅 滋正	"	
"	広島大(理)	"	谷 口 雅樹	"	

平成8年度 前期短期研究会一覧

研 究 会 名	開 催 期 日	参 加 予定人数	提 案 者
ナノ構造の光物性の新局面	6月3日 ～ 6月4日 (2日間) 11：00～	60名 (19名)	○伊 藤 正(東北大・工) 末 元 徹(東大・物性研) 萱 沼 洋 輔(阪府大・工) 中 村 新 男(名大理工総研) 中 山 正 昭(阪市大・工) 舛 本 泰 章(筑波大・物理)
物性研究における計算物理学の現状と今後の展望	5月27日 ～ 5月29日 (3日間) 13：00～	80名 (20名)	○高 山 一(東大・物性研) 塚 田 捷(東大・理) 岡 部 豊(都立大・理) 宮 下 精 二(阪大・理) 樋 渡 保 秋(金沢大・理) 今 田 正 俊(東大・物性研) 常 行 真 司(東大・物性研)

○は提案代表者

平成 8 年度 前期外来研究員一覧

嘱託研究員

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
北大 (地球環境) 教 授	奥原 敏夫	5/20~5/22 6/20~6/22	環境触媒表面の原子構造と機能に関する研究	田 中
名大 (工) 教 授	服部 忠	5/13~5/14	ナノ構造における触媒反応	"
筑波大 (物 理) 助 教 授	福山 寛	6/1 ~8/31 上記期間中 (日帰り・2回)	m k・強磁場中の温度スケールの確立	石 本
北教大 教 授	高柳 滋	6/11~6/16 8/12~8/17	多重極限環境下での物性研究	毛 利
埼玉大 (理) 助 教 授	上床 美也	4/1 ~9/30 上記期間中 (6泊7日・3回) (7泊8日・3回)	"	"
島根大 (教 育) 助 教 授	秋重 幸邦	7/10~7/17 8/10~8/17	低温高圧下での酸化物強誘電体の物性	"
北海道東海大 教 授	四方 周輔	4/1 ~9/30 上記期間中 (5泊6日・2回)	多重極限下における輸送現象測定技術開発	"
千葉大 (理) 助 教 授	伊藤 正行	4/1 ~9/30 上記期間中 (月・1回)	核磁気共鳴法を用いた低次元酸化物の研究	安 岡
岡山大 (理) 助 教 授	原田 勲	4/1 ~9/30 上記期間中 (3泊4日・2回)	磁性体の光学的性質の理論的研究	小 谷
山口大 (養) 教 授	相原 正樹	"	光励起された電子正孔系の巨視的量子現象	"
阪大 (理) 教 授	大貫 悅睦	5/13~5/15 7/22~7/24	Ce及びU化合物の超伝導	上 田 (和)
東京理科大 (理) 教 授	石井 力	4/1 ~9/30 上記期間中 (週・1回)	異方的近藤格子の基底状態	"

嘱託研究員

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
東京理科大 (理 工) 教 授	守 谷 亨	4/1 ~9/30 上記期間中 (週・1回)	高温超伝導体におけるスピノのゆらぎの効果	上 田 (和)
東 大 (工) 講 師	初 貝 安 弘	"	一般化された排他的分數統計による強相関系の研究	甲 元
学習院大 (理) 助 手	高 麗 徹	"	くり込み群の方法による強相関電子系の研究	"
東 大 (核 研) 助 手	武 藤 正 文	4/1 ~9/30 上記期間中 (月・2回)	高輝度光源計画における加速器電磁石の設計	神 谷
阪 大 (産 研) 教 授	磯 山 悟 朗	4/1 ~9/30 上記期間中 (日帰り・2回)	アンジュレータの基本設計	"
高 工 研 教 授	春 日 俊 夫	"	高輝度光源計画における加速器モニタリング・システムに関する研究	"
高 工 研 助 教 授	伊 澤 正 陽	"	高輝度光源計画高周波加速空洞の開発に関する研究	"
高 工 研 助 教 授	小 林 仁	"	高輝度光源計画におけるライナックの設計研究	"
高 工 研 助 手	家 入 孝 夫	"	ビーム設計システムの開発研究	"
高 工 研 助 手	飛 山 真 理	"	電子入射器(高輝度光源計画)の設計	"
高 工 研 助 手	堀 洋 一 郎	"	高輝度光源計画の加速器における真空システムの設計	"
高 工 研 助 手	小 林 幸 則	"	高輝度光源リングのラティス設計及び色収差補正に関する研究	"
高 工 研 技 官	佐 藤 佳 裕	"	高輝度光源計画におけるコントロール・システムの設計開発	"

嘱託研究員

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
理 研 先任研究員	大 熊 春 夫	4/1 ~9/30 上記期間中 (月・2日)	放射光光源における挿入型光源の 研究	神 谷
東 北 大 (科計研) 助 教 授	上 田 潔	4/1 ~9/30 上記期間中 (日帰り・2回)	高輝度光源を利用する原子・分子 分光実験設備の基本設計	柿 崎
東 北 大 (科計研) 助 教 授	柳 原 美 廣	"	高輝度光源に適合する固体発光実 験用分光光学系の基本設計	"
群 馬 大 (教 育) 教 授	菅 原 英 直	"	"	"
群 馬 大 (教 育) 助 教 授	奥 沢 誠	"	"	"
阪 大 (基礎工) 助 教 授	大 門 寛	4/1 ~9/30 上記期間中 (1泊2日・2回)	高輝度光源を利用する固体表面電 子分光実験設備の基本設計	"
広 島 大 (理) 助 手	佐 藤 仁	4/1 ~9/30 上記期間中 (2泊3日・2回)	高輝度光源を利用する固体分光実 験設備の基本設計	"
高 工 研 助 教 授	柳 下 明	4/1 ~9/30 上記期間中 (日帰り・2回)	高輝度光源を利用する原子分光実 験設備の基本設計	"
分 子 研 教 授	小 杉 信 博	"	高輝度光源を利用する分子分光実 験設備の基本設計	"
阪 大 (理) 助 教 授	河原崎 修 三	5/13~5/18 7/8 ~7/13	高輝度 三軸型分光器HER(C ₁₋₁) の高度化と物性研究への応用	吉 沢
群 馬 大 (工) 助 教 授	平 井 光 博	4/1 ~9/30 上記期間中 (1泊2日・2回)	生体物質研究における中性子分光 器の有効利用について	松 下
阪 大 (理) 助 手	武 田 定	"	化学の研究分野における中性子分 光器の利用について	"
広 島 大 (総 合) 助 手	瀬 戸 秀 紀	"	高分子研究における中性子分光器 の有効利用について	"

留学研究員

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
東京理科大 (理) D. C. 3	柴 田 尚 和	4/1 ~9/30	強相関電子系の磁性	上 田 (和)
東京理科大 (理 工) D. C. 3	中 村 賢	"	スピニラギに基づく高温超伝導 の研究	"

一 般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
東 大 (教 養) 教 授	鹿児島 誠一	4/1 ~9/30 上記期間中 (週・3日)	有機低次元導体の強磁場下の物性	三 浦
東 大 (教 養) 助 手	長谷川 達生	"	"	"
東 大 (総合文化) D. C. 3	斎 藤 裕	"	"	"
東 大 (総合文化) D. C. 3	花 咲 德 亮	"	"	"
東 大 (総合文化) D. C. 3	山 口 智 弘	"	"	"
山 梨 大 (教 育) 助 教 授	渡 辺 勝 儀	7/15~7/17	超強磁場下におけるGaSe結晶のバ ンド端励起子の磁気光効果	"
阪 大 (工) 教 授	濱 口 智 尋	4/1 ~9/30 上記期間中 (2泊3日・1回)	超強磁場下における(InAs)/ (AlGaSb)ヘテロ構造の赤外サイク ロトロン共鳴に関する研究	"
阪 大 (工) 講 師	森 伸 也	"	"	"
阪 大 (低温セ) 助 手	百瀬 英毅	"	"	"

一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
阪 大 (工) D. C. 2	尾 迫 伸 一	4/1 ~9/30 上記期間中 (2泊3日・1回)	超強磁場下における(InAs)/ (AlGaSb)ヘテロ構造の赤外サイク ロトロン共鳴に関する研究	三 浦
国際超電導産業 技術研究センター 超電導工学研	中 尾 公 一	4/1 ~9/30 上記期間中 (週・1日)	パルス強磁場による高温超伝導体 のB _{c2} 測定	"
北 大 (理) 助 手	天 谷 健 一	4/1 ~9/30 上記期間中 (5泊6日・1回)	重い電子系化合物の強磁場磁化測 定	後 藤
北 大 (理) D. C. 3	松 平 和 之	"	"	"
北 大 (理) D. C. 2	田 山 孝	"	"	"
お 茶 大 (理) 教 授	伊 藤 厚 子	4/1 ~9/30 上記期間中 (14回)	ランダム磁性体の磁化測定	"
お 茶 大 (人間文化) D. C. 3	邸 乃 力	4/1 ~9/30 上記期間中 (5回)	"	"
お 茶 大 (人間文化) D. C. 3	深 谷 敦 子	4/1 ~9/30 上記期間中 (14回)	"	"
横浜国大 (工) 教 授	山 口 益 弘	4/1 ~4/14 6/1 ~6/14 8/1 ~8/14	希土類-遷移金属間化合物および 水素化物の高磁場磁性	"
福 井 大 (工) 助 教 授	網 代 芳 民	4/1 ~9/30 上記期間中 (4泊5日・1回)	低次元量子スピン系の磁場中相転 移	"
福 井 大 (工) D. C. 2	浅 野 貴 行	"	"	"
福 井 大 (工) D. C. 2	稻 垣 祐 次	"	"	"
京 大 (工) 助 教 授	和 田 裕 文	6/3 ~6/7	中間価数をもつEu化合物の高磁 場磁化過程	"

一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
京 大 (工) D. C. 1	光 田 晓 弘	6/24~6/28	中間価数をもつEu化合物の高磁場磁化過程	後 藤
京 大 (工) M. C. 2	中 村 彰 宏	"	"	"
東北学院大 (工) 教 授	鹿 又 武	4/22~4/24	多重極限下における鉄族金属間化合物の磁性	"
東北学院大 (工) M. C. 2	伊 勢 康 大	4/22~4/28	"	"
上 智 大 (理 工) 助 教 授	田 中 秀 数	5/13~5/18	二重スピン鎖系KCuCl ₃ およびその関連物質の強磁場磁化過程	"
山 口 大 (工) 教 授	三 好 正 毅	4/22~4/27	中国茶の非線形光学効果の時間応答の研究	末 元
山 口 大 (工) D. C. 2	張 燕 芳	"	"	"
東京理科大 (基礎工) 教 授	高 野 幸 男	4/1 ~9/30 上記期間中 (週・2日)	半導体中の伝導電子の散乱に関する研究	"
東京理科大 (基礎工) M. C. 2	丸 山 将 一	"	"	"
長崎総科大 教 授	浅 海 勝 征	8/5 ~8/9	KT:OPO ₄ の応力誘起ノンクリティカル位相整合	"
北 大 (理) 教 授	山 岸 眞 彦	4/1 ~9/30 上記期間中 (2泊3日・1回)	金属錯体のLB膜の2次元累積構造	田 中
北 大 (触媒研) 教 授	松 島 龍 夫	7/21~7/28	反応性脱離のダイナミクスと表面構造の相関について	"
北 大 (触媒研) 助 教 授	荒 又 明 子	7/15~7/17	晶癖の電極電位依存性に関する研究	"

一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
北大 (触媒研) 助手	山 中 俊朗	5/7 ~5/20	階段構造白金表面上の反応場の選択、移動と反応種の分布	田 中
北大 (地球環境) D. C. 2	Moise Calin Constantin	7/21~8/20	階段状構造の白金表面における酸素吸着と表面再配列	"
東北大 (情報科学) 助 教 授	佐々木 一夫	6/3 ~6/6	吸着によって金属表面に形成される秩序構造の解析	"
山梨大 (教 育) 教 授	川 村 隆 明	4/1 ~9/30 上記期間中 (4泊5日・1回)	結晶表面の局所原子配列	"
北大 (理) 教 授	野 村 一 成	4/1 ~9/30 上記期間中 (6泊7日・1回)	銅酸化物超伝導体の渦糸状態の磁場中STMによる研究	小 森
北大 (理) 助 手	市 村 晃 一	"	"	"
北大 (理) D. C. 2	鈴 木 宏 治	"	"	"
宇都宮大 (工) 助 教 授	江川 千佳司	5/10	表面局所物性に対応した準安定薄膜の反応性に関する研究	"
東 大 (生産研) 講 師	福 谷 克 之	4/1 ~9/30 上記期間中 (月・4日)	金属表面における陽電子再放出	"
東京学芸大 助 教 授	金 沢 育 三	4/1 ~9/30 上記期間中 (週・1日)	低速陽電子ビームによる物性研究	"
東京学芸大 M. C. 2	田 代 瞳	"	"	"
鳥 取 大 (工) 助 教 授	石 井 晃	5/13~5/17	陽電子を用いた表面分光法の開発	"
東 大 (教 養) 助 教 授	和 田 信 雄	4/1 ~9/30 上記期間中 (週・2日)	超低温での2次元 ³ Heフェルミ縮退の比熱	石 本

一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
神奈川工科大 非常勤講師	鳥 塚 潔	4/1 ~9/30 上記期間中 (週・4日)	極低温超音波実験用トランステューサーの開発	石 本
北 大 (理) 助 教 授	川 端 和 重	7/8 ~7/13	伝導性有機錯体における物性	毛 利
北 大 (理) M. C. 2	梁 井 元 樹	"	"	"
室蘭工大 (工) M. C. 2	清 水 学 志	4/27~5/7	低温, 高圧下における一次元白金 錯体, $\text{Pt}(\text{bgd})_2$ の電気伝導	"
旭川医科大 講 師	本 間 龍 也	7/15~7/26	CuIr_2S_4 のホール係数の圧力依存 性	"
埼 玉 大 (理) 教 授	宮 本 芳 子	4/1 ~9/30 上記期間中 (1泊2日・12回)	低温・高圧下におけるマグネタイト(Fe_3O_4)の物性	"
埼 玉 大 (理 工) D. C. 1	鈴 木 成 己	"	"	"
埼 玉 大 (理) 助 教 授	上 床 美 也	4/4 ~4/10	CeRu_2 の低温, 高圧, 高磁場下で の物性研究	"
埼 玉 大 (理 工) M. C. 2	佐 藤 貴 樹	"	"	"
琉 球 大 (理) 教 授	矢ヶ崎 克 馬	"	"	"
琉 球 大 (理) 助 手	仲 間 隆 男	"	"	"
電 通 大 D. C. 3	石 田 進	4/1 ~9/30 上記期間中 (週・1日)	高圧下における Fe_3O_4 の物性測定	"
横 浜 国 大 (工) 教 授	栗 田 進	"	高圧下における TiO_2 の構造	"

一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
横浜国大 (工) 技官	関 谷 隆 夫	4/1 ~9/30 上記期間中 (週・1日)	高圧下におけるTiO ₂ の構造	毛 利
横浜国大 (工) D. C. 3	穂 坂 紀 子	"	"	"
横浜国大 (工) M. C. 2	小 針 克 彦	"	"	"
信 州 大 (理) 教 授	永 井 寛 之	8/5 ~8/9	高圧下における試料作成と結晶解 析	"
信 州 大 (理) 助 手	天 児 寧	"	"	"
信 州 大 (理) M. C. 2	横 山 知 崇	"	"	"
青山学院大 (理工) 教 授	秋 光 純	4/1 ~9/30 上記期間中 (週・1日)	超高压下での新高温超伝導体の合 成と、その物性測定	"
青山学院大 (理工) M. C. 2	佐 藤 美 穂	"	"	"
長崎総科大 教 授	浅 海 勝 征	9/2 ~9/6	KT:OP0 ₄ の応力誘起ノンクリティ カル位相整合	"
北 大 (理) 教 授	藤 野 清 志	6/6 ~6/8	高圧下におけるガ-ネット-ペロスカイト 相 変態と各相のレオロジーの解明	八 木
北 大 (理) D. C. 3	宮 島 延 吉	6/6 ~6/20	"	"
室蘭工大 (工) 教 授	城 谷 一 民	4/27~5/7	高圧下におけるZrRuGeの合成と超 伝導	"
室蘭工大 (工) M. C. 2	内 海 貴 徳	"	"	"

一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関 係 所 員
岐 阜 大 (工) 助 教 授	佐々木 重 雄	4/1 ~9/30 上記期間中 (12泊13日・1回)	高圧力下における H ₂ -H ₂ O クラスレート 単結晶の作成とその弾性的性質	八 木
岐 阜 大 (工) M. C. 2	吉 田 美 隆	"	"	"
愛 媛 大 (理) 教 授	入 船 徹 男	6/1 ~6/8	下部マントル物質の相転移	"
愛 媛 大 (理) D. C. 1	黒 田 幸 治	6/1 ~6/10	"	"
愛 媛 大 (理) M. C. 2	宮 下 穂	"	"	"
北陸先端科技大 助 教 授	岩 佐 義 宏	5/10~5/11	高圧合成法によるフラーレンポリマーの研究	"
北陸先端科技大 M. C. 2	宮 本 康 弘	"	"	"
東 北 大 (金 研) 助 教 授	高 梨 弘 毅	5/13~5/16	CuCoスパッタ合金膜の微細構造と 磁気抵抗	安 岡
東 北 大 (工) D. C. 3	菅 原 貴 彦	"	"	"
東 北 大 (理) 助 手	高 木 滋	5/20~5/25	重い電子系化合物の強磁場NMR	"
東 北 大 (理) M. C. 2	小 林 宏 至	"	"	"
埼 玉 大 (教 育) 教 授	津 田 俊 信	4/1 ~9/30 上記期間中 (週・1回)	酸化物高温超伝導体およびその関連物質の核磁気共鳴	"
阪 大 (基礎工) 教 授	那 須 三 郎	6/10~6/14	鉄中侵入型不純物元素の電子状態	"

一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
大阪大 (基礎工) D. C. 1	樋野村 徹	6/10~6/14	鉄中侵入型不純物元素の電子状態	安岡
名大 (工) 教 授	森永正彦	"	"	"
徳島大 (工) 助 教 授	大野 隆	8/3 ~8/14	高温超伝導体 $Y_{1-x}Pr_xBa_2Cu_3O_7$ の Cu-NQR	"
国際超電導産業 技術研究センター 超電導工学研 主任研究員	町 敬人	4/1 ~9/30 上記期間中 (週・1~2回)	高温超伝導体のNMR	"
国際超電導産業 技術研究センター 超電導工学研 研究員	菊地 淳	4/1 ~9/30 上記期間中 (週・2回)	"	"
電通大 教 授	野上 隆	"	有機強磁性体の探索と極低温物性	石川
広島大 (理) 教 授	高畠敏郎	8/5 ~8/9	CeFeGe ₃ 単結晶の伝導と磁性	"
広島大 (理) 研 究 生	山本 広志	"	"	"
大阪府立大 (先端研) 教 授	杉本 豊成	9/1 ~9/2	有機電荷移動錯体強磁性体の磁気 特性	"
熊本大 (教養) 助 手	加賀山朋子	7/15~7/18	PrSb ₂ 単結晶の磁気抵抗効果	家
熊本大 (理) M. C. 2	川口和博	"	"	"
東邦大 (理) 教 授	梶田晃示	4/1 ~9/30 上記期間中 (月・1日)	有機伝導体のホール効果と磁気抵 抗	"
東邦大 (理) D. C. 1	田嶋尚也	"	"	"

一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関 係 所員
東 大 (工) 講 師	大久保 達也	4/1 ~9/30 上記期間中 (週・1日)	ゼオライト単結晶の育成	高 木
東 工 大 (理) 助 教 授	腰 原 伸 也	4/1 ~9/30 上記期間中 (週・2日)	光誘起磁性現象の研究	"
京 大 (化 研) 助 手	東 正 樹	6/3 ~6/6	量子スピン梯子物質の比熱測定	"
京 大 (化 研) 教 授	高 野 幹 夫	9/2 ~9/5	"	"
京 大 (理) M. C. 2	藤 城 芳 江	5/13~5/16	"	"
国際超電導産業 技術研究センター 超電導工学研 主任研究員	寺 崎 一 郎	4/1 ~9/30 上記期間中 (週・1~2日)	強相関低次元金属の高温物性	"
山 口 大 (工) 助 教 授	中 山 則 昭	6/10~6/14	Li-Ni-Mn-O系スピネル型高温急冷 相の構造と磁性	上 田 (寛)
東京商船大 (商 船) 助 教 授	和 泉 充	4/1 ~9/30 上記期間中 (週・1日)	高導電性L B膜開発をめざしたT T F系電荷移動塩の作成	加 藤
東京商船大 (商 船) 助 手	大 貫 等	"	"	"
東京商船大 (商 船) M. C. 2	野 田 哲 也	"	"	"
東京学芸大 助 教 授	金 沢 育 三	4/1 ~9/30 上記期間中 (月・2日)	準結晶試料の作成	物 質 開発室
東京学芸大 M. C. 2	濱 田 栄 作	"	"	"
東 大 (工) 教 授	井 野 博 満	4/1 ~9/30 上記期間中 (週・2日)	Sm化合物の作成	"

一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
東 大 (工) D. C. 3	安 達 弘 通	4/1 ~9/30 上記期間中 (週・2日)	Sm化合物の作成	物 質 開発室
東 大 (工) 教 授	井 野 博 満	"	Sm合金, 化合物の磁化測定	電磁気 測定室
東 大 (工) D. C. 3	安 達 弘 通	"	"	"
信 州 大 (理) 教 授	永 井 寛 之	9/2 ~9/6	希土類化合物の磁化測定	"
信 州 大 (理) M. C. 2	横 山 知 崇	"	"	"
名 工 大 (工) 助 教 授	坂 本 功	8/23~8/25	U-Ga化合物のドハース・ファンア ルフェン効果	"
広 島 大 (理) 教 授	高 富 敏 郎	7/8 ~7/12	近藤半導体の磁気抵抗と磁化	"
広 島 大 (理) 非常勤講師	加 藤 健 一	"	"	"
広 島 大 (理) M. C. 2	小 林 克 志	"	"	"
長 野 高 専 教 授	藤 原 勝 幸	7/9 ~7/11	金属水素化物Y(Co-T) ₂ Hyの磁性	"
高 松 高 専 教 授	明 神 敦 久	6/10~6/16	希土類化合物R ₂ Co ₁₄ Bの磁性研究	"
富山県立大 (工) 助 教 授	横 道 治 男	8/5 ~8/8	電子スピニ共鳴法によるフラー-レンド-ブアモル フアシリコン の電子状態に対する研究	"
富山県立大 (工) M. C. 2	翁 輝 雄	9/10~9/13	"	"

一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
群馬県立医療 短 大 講 師	岡 部 勝 也	9/24~9/26	バナジウム酸化物の低温磁性	電磁気 測定室
いわき明星大 (理 工) 教 授	吉 田 喜 孝	4/1 ~9/30 上記期間中 (2泊3日・2回)	金属結晶内包カーポン/ケシナノチューの 電子・磁気物性の探索	"
東 大 (工) 教 授	前 田 康 二	4/1 ~9/30 上記期間中 (週・1日)	結晶欠陥運動の原子レベルその場 観察	電子顕 微鏡室
東 大 (工) 助 手	伊 藤 吾 朗	4/1 ~9/30 上記期間中 (月・1日)	アルミニウム合金の析出組織の解 析	"
東 大 (工) 助 手	山 本 剛 久	"	BaTiO ₃ 焼結体の結晶粒界構造の解 析	"
日 大 (文 理) 助 手	大 川 哲 植	4/1 ~9/30 上記期間中 (週・1~2日)	Mg-Zn-Y 系準結晶中の転位の観察	"
北陸先端科技大 助 手	土 家 琢 磨	9/10~9/13	2次元電子系における磁気ルミネ ッセンスの研究	安 藤
仙台電波高専 助 手	鈴 木 達 夫	7/22~7/26	強磁場下における半導体量子細線 のエッジ状態の解明	"
大阪府立大 (工) 助 手	田 中 智	4/1 ~9/30 上記期間中 (6泊7日・1日)	内殻励起下での格子緩和過程の理 論	小 谷
姫路工大 (理) 助 手	坂 井 徹	9/17~9/20	低次元磁性体の統計力学	高 橋 (實)
東 北 大 (理) 助 手	西 野 友 年	7/2 ~7/4	密度行列実空間繰り込み群による 強相関系の研究	上 田 (和)
大阪府立大 (総合科学) 助 手	神 吉 一 樹	6/3 ~6/4	重い電子系の電子状態と超伝導	"
九 州 大 (理) 助 手	渕 崎 員 弘	9/2 ~9/14	テトラハライド系の圧力誘起非晶 質化	藤 井

一 般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
名 大 (工) M. C. 2	百瀬 陽	4/15~4/18	環状ポリ(2-ビニルビラン)の単離とそ のキャラクタリゼーション	松 下
日 大 (理 工) 教 授	西 尾 成 子	4/1 ~9/30 上記期間中 (月・1日)	物性研究資料室試料の収集・整理	外来委
日 大 (理 工) 専任講師	植 松 英 穂	"	"	"

S O R

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
東京農工大 (工) 教 授	I - 1 佐 藤 勝 昭	4/8 ~4/19	Bi系高温超伝導体単結晶のVUV 反 射スペクトル	S O R
東京農工大 (工) 助 手	石 橋 隆 幸	"	"	"
東 北 大 (科計研) 助 手	I - 2 佐 多 教 子	6/22~7/7	酸化物ペロブスカイトのプロトン 吸蔵と電子構造の研究	"
東 北 大 (理) D. C. 1	八木 良太郎	"	"	"
東 北 大 (理) D. C. 2	佐 藤 方 樹	4/21~4/28	"	"
東 北 大 (理) M. C. 2	松 田 宏 人	6/22~7/7	"	"
琉 球 大 (教 育) 教 授	I - 3 江 尻 有 郷	5/27~6/1	アルカリ土類弗化物光電子Total yield の温度依存性	"
琉 球 大 (理) M. C. 2	新 垣 邦 宏	5/20~6/1	"	"

S O R

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
琉球大 (教 育) 研 究 生	INTHANONTE TEERAPHON	5/20~6/1	アルカリ土類弗化物光電子Total yield の温度依存性	S O R
東 大 (教 養) 助 教 授	波 田 野 彰	5/20~5/31	"	"
東 北 大 (電通研) 助 教 授	I - 4 庭 野 道 夫	6/3 ~6/14	低誘電率絶縁膜の光学特性に関する研究	"
東 北 大 (電通研) 助 手	遠 田 義 晴	"	"	"
東 北 大 (工) D. C. 1	庄 子 大 生	"	"	"
横 浜 国 大 (工) 教 授	I - 5 栗 田 進	6/17~6/21	TiO ₂ 多形の偏光反射スペクトル	"
横 浜 国 大 (工) 技 官	関 谷 隆 夫	"	"	"
横 浜 国 大 (工) D. C. 3	穂 坂 紀 子	6/17~6/22	"	"
横 浜 国 大 (工) M. C. 2	小 針 克 彦	"	"	"
横 浜 国 大 (工) M. C. 2	廣 野 貴 啓	"	"	"
大阪府立大 (工) 教 授	II - 3 会 田 修	5/30~6/1	共鳴光電子分光法によるLaNiO ₃ およびLa _{1-x} Sr _x CoO ₃ の電子状態の研究	"
大阪府立大 (工) 助 教 授	市 川 公 一	6/2 ~6/8	"	"
大阪府立大 (工) 助 手	田 中 智	5/26~5/29	"	"

S O R

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
大阪府立大 (工) 助 手	田 口 幸 広	5/26~6/2	共鳴光電子分光法によるLaNiO ₃ およびLa _{1-x} Sr _x CoO ₃ の電子状態の研究	S O R
大阪府立大 (工) M. C. 3	定 田 浩 一	5/26~6/8	"	"
大阪府立大 (工) M. C. 2	太 田 泰 昭	"	"	"
名 大 (工) 助 教 授	曾 田 一 雄	6/3 ~6/8	"	"
大阪府立大 (工) 教 授	奥 田 喜 一	6/6 ~6/8	"	"
東 大 (生産研) 講 師	II-5 福 谷 克 之	6/17~6/21	白金表面における単原子層ゲルマニウムの電子構造	"
東 北 大 (電通研) 助 教 授	II-6 庭 野 道 夫	6/24~7/6	CaAs表面の硫黄不活性化処理に関する研究	"
東 北 大 (電通研) 助 手	遠 田 義 晴	"	"	"
東 北 大 (工) D. C. 1	三 浦 貴 晶	"	"	"
東 北 大 (工) D. C. 1	庄 子 大 生	"	"	"
東 北 大 (電通研) 助 教 授	III-1 庭 野 道 夫	"	放射光励起薄膜形成の研究	"
東 北 大 (電通研) 助 手	遠 田 義 晴	"	"	"
東 北 大 (工) D. C. 1	庄 子 大 生	"	"	"

S O R

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
東 北 大 (工) D. C. 1	三 浦 貴 晶	6/24~7/6	放射光励起薄膜形成の研究	S O R
阪 大 (基礎工) 助 教 授	IV-1 大 門 寛	6/17~6/28	Si及び、遷移金属化合物の2次元 光電子分光	"
阪 大 (基礎工) 教 授	菅 滋 正	7/1 ~7/6	"	"
阪 大 (基礎工) 助 手	今 田 真	6/3 ~6/14	"	"
阪 大 (基礎工) D. C. 3	奥 田 太 一	4/8 ~5/10	"	"
阪 大 (基礎工) D. C. 2	中 辻 寛	5/20~5/31	"	"
阪 大 (基礎工) M. C. 2	沖 宏 幸	7/1 ~7/6	"	"
阪 大 (基礎工) M. C. 2	上 田 茂 典	6/3 ~6/14	"	"
阪 大 (基礎工) M. C. 2	恒 川 雅 典	5/27~6/7	"	"
阪 大 (基礎工) D. C. 1	室 隆 桂 之	7/1 ~7/6	"	"
阪 大 (基礎工) M. C. 1	宮 坂 昌 宏	6/17~6/28	"	"
阪 大 (基礎工) M. C. 1	古 畑 武 夫	4/15~4/19	"	"
国際基督大 講 師	V-1 高 倉 かほる	4/8 ~6/28	放射光紫外線の利用による生命誕 生の分子機構	"

S O R

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
立 教 大 (理) 教 授	檜枝 光太郎	4/8 ~6/28	放射光紫外線の利用による生命誕生の分子機構	S O R
立 教 大 (理) M. C. 2	原 岳 弘	"	"	"
立 教 大 (理) M. C. 1	大 木 正 久	"	"	"
立 教 大 (理) M. C. 1	高 橋 展 弘	"	"	"
東 海 大 (工) 助 教 授	伊 藤 敦	"	"	"
高 工 研 助 教 授	小 林 克 己	6/11~6/14	"	"
大阪府立大 (先端研) 講 師	恵 恒 雄	6/25~6/28	"	"
大阪府立大 (先端研) 助 教 授	藤 田 慎 一	"	"	"
東 海 大 (医) 講 師	前 澤 博	"	"	"
国際基督大 (理) 教 授	石 川 光 男	4/8 ~6/28	"	"
国際基督大 (理) M. C. 2	千 田 哲 史	"	"	"
神奈川大 (総理研) 客員研究員	峯岸 安津子	"	"	"
基 生 研 助 教 授	渡 辺 正 勝	5/20~5/23	"	"

S O R

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
筑 波 大 (生物科学) D. C. 3	松 永 茂	5/20~5/23	放射光紫外線の利用による生命誕生の分子機構	S O R
原 研 研究員	横 谷 明 德	"	"	"
原 研 特別研究員	横 谷 立 子	"	"	"

中 性 子

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
九 大 (理) 教 授	武 田 信 一	4/1 ~9/30 上記期間中 (7泊8日・1回)	溶融III _b -Te混合系の構造	中性子
九 大 (理) 技 官	川 北 至 信	"	"	"
九 大 (理) 大学院学生	松 原 良 太	"	"	"
九 大 (理) 大学院学生	松 平 曜 生	"	"	"
九 大 (理) 教 授	武 田 信 一	4/1 ~9/30 上記期間中 (6泊7日・1回)	溶融塩混合系の構造と中距離秩序	"
九 大 (理) 技 官	川 北 至 信	"	"	"
新 潟 大 (理) 助 教 授	丸 山 健 二	"	"	"
広 島 大 (総 合) 助 教 授	乾 雅 祝	"	"	"

中性子

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
九大 (理) 大学院学生	平松 晓生	4/1 ~9/30 上記期間中 (6泊7日・1回)	溶融塩混合系の構造と中距離秩序	中性子
新潟大 (理) 教 授	樋田 昭次	4/1 ~9/30 上記期間中 (6泊7日・2回)	ガルコゲン化合物半導体の強誘電性モードの研究	"
早稲田大 (理工) 教 授	角田 順彦	4/1 ~9/30 上記期間中 (2泊3日・2回)	"	"
新潟大 (理) 助 手	斎藤 天	4/1 ~9/30 上記期間中 (6泊7日・2回)	"	"
新潟大 (理) 教 授	田巻 繁	4/1 ~9/30 上記期間中	二相分離系液体合金の局所構造	"
新潟大 (自然科学) 大学院学生	荒井 康智	4/1 ~9/30 上記期間中 (4泊5日・1回)	"	"
九大 (理) 教 授	武田 信一	"	"	"
阪大 (理) 助 教 授	河原崎 修三	4/1 ~9/30 上記期間中 (4泊5日・2回)	周期的非線形格子振動の中性子散乱による研究	"
阪大 (理) 大学院学生	佐藤 真直	"	"	"
お茶大 (理) 助 手	外館 良衛	4/1 ~9/30 上記期間中 (3泊4日・2回)	規則型複合ペロブスカイト酸化物の構造と磁性	"
東京理科大 (理) 助 教 授	満田 節生	4/1 ~9/30 上記期間中 (3泊4日・2回)	強誘電体TbMn ₂ O ₅ の磁気秩序	"
東京理科大 (理) 大学院学生	笠原 寛顕	"	"	"
福井大 (工) 教 授	目片 守	4/1 ~9/30 上記期間中 (5泊6日・1回)	強い競合系におけるスピノ波分散	"

中性子

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
福井大 (工) 大学院学生	浅野貴行	4/1 ~9/30 上記期間中 (5泊6日・1回)	強い競合系におけるスピニ波分散	中性子
福井大 (工) 大学院学生	津布久 剛	"	"	"
福井大 (工) 大学院学生	ア布拉買買提	"	"	"
慶應大 (理工) 教 授	安西 修一郎	4/1 ~9/30 上記期間中 (7泊8日・1回)	NiSの金属相に於けるスピニ相関	"
慶應大 (理工) 助 手	的場正寛	"	"	"
福井大 (工) 教 授	目片 守	"	三角格子反強磁性体の動的臨界指 数	"
福井大 (工) 助 教 授	網代芳民	"	"	"
お茶大 (理) 教 授	伊藤厚子	4/1 ~9/30 上記期間中 (3泊4日・2回)	ボンドランダムフラストレーショ ン系 $\text{Fe}(\text{BrXI}_{1-X})_2$ の磁気構造	"
お茶大 (人間文化) 大学院学生	邸乃力	"	"	"

平成8年度 前期スーパーコンピュータ共同利用採択課題一覧

所 属	代 表 者	研 究 課 題 名
阪 大 ・ 理	時 田 恵一郎	生物系のスピングラスモデル
宮 崎 大 学 ・ 工	岩 井 芳 夫	分子シミュレーションによる超臨界二酸化炭素中の芳香族化合物ならびに鎖状分子の挙動解析
筑 波 大 ・ 物 理	押 山 淳	カーボン・ナノチューブの成長機構と電子物性
筑 波 大 ・ 物 理	押 山 淳	半導体エピタキシャル成長の微視的機構
長岡技術科学大・工	北 谷 英 嗣	フラストレートした古典、及び量子スピン系の相転移
徳 島 大 ・ 工	森 篤 史	剛体球系の固液界面および結晶成長の分子動力学シミュレーション
東 大 ・ 物 性 研	小 谷 章 雄	d および f 電子系の高エネルギー分光理論
科学技術庁・無機材研	小 林 一 昭	第一原理計算による新物質の設計及び探索
東 大 ・ 工	藤 原 毅 夫	第一原理に基づく凝縮系電子構造計算
都 立 大 ・ 理	岡 部 豊	量子・ランダムスピン系のモンテカルロシミュレーション
埼 玉 大 ・ 理	飛 田 和 男	低次元量子スピン系の数値的研究
法 政 大 ・ 工	片 岡 洋 右	水素結合性液体・溶液における物性と動的構造
静 岡 大 ・ 理	松 本 正 茂	d 波超伝導体における境界効果
金 沢 大 ・ 理	高 須 昌 子	ヘテロポリマーの性質と粒子系の安定性
阪 大 ・ 理	山 本 昌 司	低次元磁性体におけるスピン・格子協力現象
北 大 ・ 工	矢久保 考 介	マルチフラクタル解析によるランダム磁場中 2 次元電子系の局在性に関する研究
北 大 ・ 工	西 口 規 彦	半導体量子細線の音響フォノンモード
北 大 ・ 工	明 楽 浩 史	半導体量子構造における電子状態
広 島 大 ・ 理	小 口 多美夫	遷移金属化合物の電子状態計算
慶 大 ・ 理 工	横 井 康 平	高次フラーーエン結晶の分子動力学法による研究
都 立 大 ・ 理	大 塚 博 巳	密度行列くりこみ群法による量子系の研究Ⅱ
東京理科大・理	諏 訪 雄 二	第一原理計算による $K_3H(SO_4)_2$ の反強誘電相転移の研究
慶 大 ・ 理 工	高 野 宏	ランダムスピン系における緩和現象

所 属	代 表 者	研 究 課 題 名
姫路工業大・理	石 井 靖	溶媒中に分散した磁性微粒子系の計算機シミュレーション
神 戸 大 ・ 理	利根川 孝	空間的構造を持つ1次元量子スピン系の数値的研究
埼 玉 大 ・ 理	佐 宗 哲 郎	無限大次元における強相関電子系の量子モンテカルロ法および厳密対角化法による研究
徳 島 大 ・ 工	西 岡 一 水	結晶微粒子における原子攪拌過程に関する研究
早 大 ・ 理 工	武 田 京三郎	生体高分子の電子構造の理論的研究
徳 島 大 ・ 工	西 岡 一 水	分子動力学シミュレーションにおける荷重の導入法
上 智 大 ・ 理 工	大 梶 東 巳	動的不規則ボテンシャル中でのアンダーソン局在
大阪府立大・総合科学	播 磨 尚 朝	F L A P W法によるf電子系の電子構造の研究
九 大 ・ 理	渕 崎 員 弘	複雑凝縮系の動力学
岡 山 大 ・ 理	町 田 一 成	強磁場下での低次元有機伝導体の理論的研究
東 北 大 ・ 理	横 山 寿 敏	モンテカルロ法及び数値対角化法によるメタ磁性転移の研究
東京理科大・理	中 村 淑 子	改良された強結合理論による、銅酸化物高温超伝導体およびフーレンの超伝導状態の研究
三 重 大 ・ 教 育	佐 野 和 博	数値対角化による一次元d-p model の研究
三 重 大 ・ 教 育	遠 山 貴 己	厳密対角化法によるハバード模型およびt-J模型の研究
山 梨 大 ・ 教 育	豊 木 博 泰	液晶の緩和過程における位相欠陥の運動
阪 大 ・ 理	宮 下 精 二	量子スピン系および電子系での長距離秩序と量子ゆらぎの競合
阪 大 ・ 理	宮 下 精 二	競合が強い系での相転移現象のモンテカルロ法による研究
金 沢 大 ・ 理	樋 渡 保 秋	水、氷などの複雑系の分子動力学シミュレーション
東大・総合文化	金 子 邦 彦	大自由度カオスの現象学
京都工芸繊維大・工芸	川 村 光	スピングラスと超伝導セラミックスのカイラル秩序化
東 大 ・ 理	野々村 祯 彦	量子スピングラスの数値的研究
東 大 ・ 物 性 研	安 藤 恒 也	量子ホール系の輸送現象と光応答
東 大 ・ 理	鈴 木 増 雄	乱れた低次元量子系の臨界現象
東 大 ・ 物 性 研	今 田 正 俊	モット転移とd電子系の異常金属相の数値的研究

所 属	代 表 者	研 究 課 題 名
筑 波 大 · 理	平 島 大	動的平均場理論を用いた強相関電子系の研究
名 大 · 工	前 川 穎 通	強相関電子系の励起スペクトルと超伝導
慶 大 · 理 工	江 藤 幹 雄	量子ドット集合系での非平衡伝導特性
阪 大 · 理	赤 井 久 純	厳密な交換項を用いた局所密度近似と金属間化合物の電子状態
京 大 · 原 子 研	山 本 雅 博	ジルコニアの相変化の第一原理計算
千 葉 大 · 理	太 田 幸 則	強相関電子模型のダイナミクスに関する数値的研究
名 大 · 工	野々山 信 二	メゾスコピック領域における電子相関効果研究
都 立 大 · 理	川 勝 年 洋	高分子／界面活性剤系の相分離の動力学
北 大 · 工	中 山 恒 義	量子ホール系における臨界波動関数のマルチフラクタル解析
千 葉 大 · 理	夏 目 雄 平	交代ハイゼンベルグボンド鎖スピニ系の磁化過程についての量子モンテカルロ計算
千 葉 大 · 理	夏 目 雄 平	特異的波数変調を受けたフェルミ面における強結合超伝導 Eliashberg方程式の数値計算
千 葉 大 · 理	夏 目 雄 平	多副格子低次元反強磁性系の低エネルギー磁気励起の数値的解法とその応用としての光学的性質の理論計算
電通大・電子工学	名 取 晃 子	異方的量子ドットの多電子相関効果：磁場効果
阪大・産業科学研	吉 田 博	電子励起原子移動による半導体不純物欠陥反応の物理と制御
筑 波 大 · 物 理	久 保 健	強相関電子系の強磁性の研究
東 北 大 · 理	加 藤 雄 介	密度行列繰り込み群を用いた強相関電子系の数値的研究
明 治 大 · 理 工	円 谷 和 雄	第一原理分子動力学法による凝縮系の構造最適化（その2）
東 大 · 物 性 研	草 部 浩 一	拡張A B周期による電子対形成の数値解析
阪 大 · 基 礎 工	白 井 正 文	遷移金属化合物における磁気光学効果の第一原理計算
千 葉 大 · 理	中 山 隆 史	半導体表面・界面の光学応答スペクトルの第一原理計算
東 北 大 · 工	中 村 統 太	フラストレーションの強い量子スピン系の数値的研究
電通大・電気通信	斎 藤 理一郎	分子動力学計算法の並列化：カーボンナノチューブの電気伝導
東 工 大 · 理	斎 藤 晋	電子構造計算に基づくクラスターとクラスター固体の物性研究
東 北 大 · 工	松 原 史 卓	サイトランダムスピングラスモデルの研究

所 属	代 表 者	研 究 課 題 名
広島大・理	城 健 男	強相関電子系の高エネルギー分光理論
岡山大・理	原 田 励	1次元量子スピン鎖における横磁場効果と非線形励起
東邦大・理	小 野 嘉 之	電子格子系におけるソリトンによる輸送現象
東邦大・理	川 島 直 輝	クラスタモンテカルロ法による格子上の低次元ボーズ系の研究
東邦大・理	小 野 嘉 之	ランダム系における準位統計と局在
東工大・理	尾 関 之 康	層状サントランダム模型によるスピングラス転移の数値的研究
東北大・理	酒 井 治	一不純物および周期アンダーソンモデルの動的励起スペクトルの数値繰り込み群法による研究
東工大・理	野 村 清 英	Haldane 予想に対するレベルスペクトロスコピーの応用
東京理科大・理	渡 辺 一 之	強電界下の表面拡散の第一原理電子論
東大・物性研	高 山 一	スピングラス問題の数値的研究
北大・低温研	古 川 義 純	水／氷界面の分子動力学シミュレーション
早大・理工	宗 田 孝 之	Ⅲ族窒化物の電子構造とフォノン構造の研究
広島大・総合科学	下 條 冬 樹	高圧下の液体ルビジウムの第一原理シミュレーション
京 大 ・ 理	大 見 哲 巨	Eilenberger 方程式によるd波超伝導での渦糸の構造の研究
北大・触媒研	早 川 和 延	交換相互作用力顕微鏡における探針－試料表面間の交換相互作用力の第一原理計算
愛媛大・工	豊 田 洋 通	第一原理分子動力学シミュレーションによる炭素材料の新創製法の開発
東大・物性研	高 橋 實	低次元磁性体及び強相関電子系の統計力学的解析
東工大・総合理工	巾 崎 潤 子	混合アルカリ効果の分子動力学シミュレーション
新潟大・理	田 仲 由喜夫	d波超電導体の界面状態と磁束状態
新潟大・理	家 富 洋	固体電解物質における電子状態と超イオン伝導機構
阪 大 ・ 工	広瀬 喜久治	実空間計算手法に基づく第一原理分子動力学シミュレーションプログラムの開発
東 大 ・ 理	梅 木 誠	流体乱流の数値解析
東大・物性研	堀 田 貴 嗣	ハバード・ホルスタイン模型における超伝導
東大・物性研	上 田 和 夫	重い電子系の数値的研究

所 属	代 表 者	研 究 課 題 名
東大・物性研	常行真司	第一原理分子動力学法を用いた高圧下の物性研究
東大・理	青木秀夫	d-pモデルの電荷移動領域とモット・ハバード領域の量子モンテカルロ法による研究
東大・理	塚田捷	第一原理電子状態によるナノ構造の物性予測
北里大・理	寺井章	スピン・パイエルス相の磁気ソリトン
東京理科大・理	上村洸	YBCO, Bi2212系等CuO ₅ クラスターの電子状態の第1原理による計算
東京理科大・理	上村洸	GaP/AIP多重量子井戸超格子の電子状態と光物性
慶大・理工	米沢富美子	複雑液体のダイナミクス
阪大・基礎工	今田真	強磁性体中の磁性元素及び非磁性元素の内殻光吸収における磁気円二色性
奈良県立医科大・医	平井國友	クロムのスピン密度波状態の電子構造
東北大・理	都築俊夫	粘性流体中の多粒子系ダイナミクス
東工大・理	上野陽太郎	モンテカルロひねりの方法による1次相転移の解析法
東工大・理	上野陽太郎	マイクロエマルジョンのトポロジカル転移のモンテカルロ研究
東工大・理	上野陽太郎	局所結合法に基づく新しいアルゴリズムの開発
東大・工	金田保則	強相関電子系のエネルギー・バンド理論
慶大・理工	椎木一夫	メゾスコピックな系における金属人工格子の第一原理計算
慶大・理工	椎木一夫	第一原理分子動力学法による遷移金属清浄表面の表面再構成構造に関する研究
京都工芸繊維大・工芸	後藤英和	水酸基によるシリコン単結晶表面の除去加工現象の第一原理分子動力学シミュレーション
名大・工	土井正男	複雑流体の非線形ダイナミクス
阪大・理	阿久津泰弘	数値繰り込み群による低次元量子多体系の研究
阪大・理	阿久津泰弘	表面・界面の相転移
日大・文理	里子允敏	局所密度汎関数法による種々の物理量計算方法の開発と応用
阪大・基礎工	鈴木直	有機分子磁性体の電子状態と磁気相図
岡山大・理	尾崎次郎	固体中のカオス
阪大・理	松川宏	摩擦の計算機実験

所 属	代 表 者	研 究 課 題 名
阪 大 · 理	菊 池 誠	低次元量子スピン系の数値的研究
東 大 · 工	井 上 博 之	第1原理計算に基づいたガラスの分子動力学計算
名 大 · 理	黒 田 義 浩	強相関電子系の I / N 展開理論

平成8年度 中性子散乱共同利用採択課題一覧

所 属	代 表 者	研 究 課 題 名	装 置 名
東北大・理	山田和芳	$\text{La}_{2-x}\text{Sr}_x\text{CuO}_4$ のスピン揺動の研究	TOPAN, HER
東北大・理	山田和芳	パイライト構造を持つ3d遷移金属間化合物の磁性と伝導	TOPAN
京都大化研	東正樹	量子スピン梯子における磁気秩序の研究	TOPAN
名古屋大・工	八田一郎	短鎖ホスファチルコリンミセルの構造	SANS-U
東京都立大・理	加藤直	界面活性剤と水が作る分子組織体の構造解析	SANS-U
九州大・理	川北至信	ハロゲンを含む液体セレンの中性子小角散乱	SANS-U
九州大・理	武田信一	溶融III _x -Te混合系の構造	TAS
九州大・理	武田信一	溶融塩混合系の構造と中距離秩序	TAS
東北大金属材料	本河光博	$\text{Y}_2\text{Cu}_2\text{O}_5$ の強磁場中磁気構造の研究	TOPAN
京都大・工	志賀正幸	インバー合金の低エネルギー励起スペクトルの観測	PONTA
東大物性研究所	松下裕秀	二様分子量分布を持つポリスチレン鎖のバルク中の拡がり	SANS-U
東大物性研究所	松下裕秀	中性子反射率法によるブロック共重合体薄膜中の高分子/高分子外曲の研究	MINE
東大物性研究所	松下裕秀	簾型高分子のミクロ相分離構造中の分子形態と界面	SANS-U, MINE
立命館大・理工	加藤 稔	高圧下での蛋白質水溶液の中性子溶液散乱を目的とした高圧装置の開発	SANS-U
広島大・総合科	藤井博信	反応性ミリングによるマグネシウム系合金粒内で超微細構造の形成過程	SANS-U
慶應大・理工	佐藤徹哉	強磁性微粒子分散高分子の磁気特性に関する研究	SANS-U
東北大・理	小松原武美	ヘヴィフェルミオン超伝導金属UPd ₂ Al ₃ の超伝導と反強磁性との相関	HER, TOPAN
九州大・理	杉山正明	電解質多糖類カラギーナンのゾル-ゲル転移	SANS-U
福岡大・理	平松信康	卵白ゲル・ガラスの構造	SANS-U
新潟大・理	樋田昭次	カルコゲン化合物半導体の強誘電性モードの研究	TAS, HQR, HER
信州大・理	永井寛之	R Mn ₆ Sn ₆ 系化合物の中性子回折による研究 (R=希土類元素)	HQR
新潟大・理	田巻繁	二相分離系液体合金の局所構造	TAS
京都大・工	長谷川博一	SANSによる高分子多成分系の相溶性に及ぼす圧力効果の研究	SANS-U

所 属	代 表 者	研 究 課 題 名	装 置 名
京都大・工	橋本竹治	ループ状の相図を有するブロック共重合体の相転移に関する研究	SANS-U
京都大・工	橋本竹治	ブロック共重合体秩序・無秩序転移に関する研究	SANS-U
神戸大・工	新井正敏	酸化物超伝導体の低エネルギー磁気励起・フォノン及び局所構造変化の測定	TOPAN, HER, HQR, TAS
自治医科大学・医	原田三男	中性子小角散乱によるシャペロニンGro-ELの構造と機能の研究	SANS-U
鳥取大・教育	安藤由和	遍歴磁性体NbFe ₂ の磁気構造	KSD
青学大・理工	秋光純	反強磁性CuGe _{1-x} Si _x O ₃ の中性子散乱	PONTA
青学大・理工	秋光純	La ₄ Ba ₂ Cu ₂ O ₁₀ の軌道整列	PONTA
青学大・理工	秋光純	ラグー系磁性体Sr _{1.4} Cu _{2.4} O _{4.1} のスピニギャップ	PONTA
青学大・理工	秋光純	CeNpC ₂ の磁気構造	KSD
青学大・理工	秋光純	La _{1-x} Sr _x TiO ₃ の中性子非弾性散乱	TAS
京都大・工	長村光造	超伝導体中の磁束の空間構造と電磁動力学的性質	SANS-U
東大物性研究所	中島健次	二次元遷移金属反強磁性体のホールドープ効果	PONTA
山形大・理	亀田恭男	高濃度無機酸水溶液中の分子間水素結合構造の解析	TAS
山口大・理	繁岡透	NdRu ₂ Ge ₂ の反強磁性-強磁性転移	PONTA
山口大・理	繁岡透	DyRu ₂ Siの逐次磁気相転移	PONTA
東北大金研	大山研司	半導体的近藤物質CeRhSbのスピニ相関	TOPAN
東北大金研	大山研司	極端条件下でのYbモノブリクタイドのスピンドライナミクス	HER
九州大・工	梶山千里	中性子反射率測定に基づくポリマーブレンド超薄膜中の分子鎖凝集状態解析	MINE
京都大・工	山岡仁史	両親媒性ポリマーの溶液中におけるミセル形成挙動	SANS-U
京都大・工	松岡秀樹	中性子反射率法による固-液界面における両親媒性高分子の形態とその集合	MINE
大阪大・理	河原崎修三	重い電子系のスピニ密度波の研究	HER, TAS
大阪大・理	河原崎修三	周期的非線形格子振動の中性子散乱による研究	PONTA, HQR
東北大金研	野尻浩之	DyB ₆ の磁気構造の研究	PONTA
福井大・工	高島正之	アニオン配座を中心とした多元金属酸フッ化物の構造の精密化	KPD

所 属	代 表 者	研 究 課 題 名	装 置 名
東大物性研究所	今 井 正 幸	マルチオーダーパラメーター系での相転移キネティクス	SANS-U
東大物性研究所	今 井 正 幸	界面活性剤-水系における立方相ネットワーク構造のゆらぎ	SANS-U
東大物性研究所	今 井 正 幸	多糖系生体高分子(グリコサミノグリカン)と水の相互作用に及ぼす化学構	SANS-U
名古屋大・工	野 田 一 郎	高分子電解質溶液の相関長と分子形態	SANS-U
名古屋大・工	高 橋 良 彰	バルク状態並びに溶液中の2元ブロック共重合体の秩序-無秩序転移	SANS-U
名古屋大・工	野 田 一 郎	相溶性ポリマーブレンドの相関長	SANS-U
名古屋大・理	今 栄 東洋子	アルコール水溶液内でアゾ系色素が構築する超分子の構造に関する研究	SANS-U
お茶の水大・理	外 館 良 衛	規則型複合ペロブスカイト酸化物の構造と磁性	TAS
岡山理科大・理	橋 高 茂 治	イオン性結晶表面における水の吸着層の動力学	AGNES
東北大・金研	大 橋 正 義	LaMn ₂ Si ₂ と関連物質の磁気構造と転移	KPD, KSD
東北大・金研	大 橋 正 義	α -RuCl ₃ の磁気構造	KPD, KSD
千葉大・理	山 田 黙	圧力下における層状強磁性体Cs ₂ CuF ₄ および(Cs ₃ NH ₃) ₂ CuCl ₄ の構造および.....	HQR, PONTA
京都大・化研	金 谷 利 治	高分子ゲルの体積変化をともなう構造形成	SANS-U, ULS
名古屋工業大	岡 林 博 文	オリゴペプチドの溶液中における会合体の超二次構造	SANS-U
群馬大・工	平 井 光 博	親水性脂質混合系の構造と相転移	SANS-U
群馬大・工	平 井 光 博	逆ミセル系の構造形成と構造ダイナミックス	SANS-U, NSE
東京理科大・理	満 田 節 生	強誘電体TbMn ₂ O ₅ の磁気秩序	HQR, TAS
東京理科大・理	満 田 節 生	銅硫黄超伝導体Cu _{1+x} Co _{2-x} S ₄ の反強磁性磁気秩序	TAS
東京理科大・理	満 田 節 生	CoNb ₂ O ₆ における磁気秩序	HER, TAS
東京理科大・理	満 田 節 生	Columbite型凝1次元系磁性体MNb ₂ O ₆ (M=Co, Ni, Cu, Fe, Mn)の三次元磁気秩序過程	TAS, HER
神戸大・理	菅 野 了 次	イオン交換により合成した層状リチウム遷移金属酸化物の構造	KPD
東大物性研究所	中 谷 信一郎	新型中性子干渉計の開発とその応用	ULS
東大物性研究所	高 橋 敏 男	コヒーレント中性子ビームによる非弾性散乱の研究	ULS
山形大・工	和 泉 義 信	多糖/水系の高次構造形成と機能発現	SANS-U, ULS

所 属	代 表 者	研 究 課 題 名	装 置 名
北海道大・理	加美山 隆	有機溶媒-電解質系の動的構造	AGNES
高 工 ネ 研	池 田 宏 信	3次元反射磁性秩序の自己相似性	TAS
東北大・金研	山 口 泰	CrMnAsにおける多重磁気モード状態の研究	TOPAN, KSD
広島大・総合科	好 村 滋 洋	両親媒子を含む三次系液体における界面膜の平均曲率	SANS-U
早稲田大・理工	角 田 賴 彦	PtFe合金の原子秩序と磁気励起	HQR
早稲田大・理工	角 田 賴 彦	析出粒子の格子振動	PONTA
早稲田大・理工	近 挂一郎	RF ₂ O ₄ のスピニ-電荷の短距離秩序によるグラス棚	HQR
早稲田大・理工	角 田 賴 彦	質量差の大きいスピノーダル系のフォノン	HQR
東 北 大 ・ 工	梶 谷 剛	BEDT-TTF化合物の中性子散乱による研究	AGNES
名古屋大・理	佐 藤 正 俊	YBCO磁気励起スペクトル異常におけるフォノンの役割	PONTA
名古屋大・理	佐 藤 正 俊	2次元強相関電子系 BaCo _{1-x} Ni _x S ₂ の金属・絶縁体転移近傍のスピノ相関の研究	PONTA
名古屋大・理	佐 藤 正 俊	低次元モット絶縁体のスピニ-重項状態及びスピニギャップの研究	PONTA
京都大・原子炉	川 野 真 治	希土類三元化合物 DyNi ₂ S ₃ の磁気構造	HQR
京都工芸繊維大	柴 山 充 弘	弱荷電高分子ゲルの平衡超構造の解析	SANS-U
福 井 大 ・ 工	網 代 芳 民	一次元量子スピニ系の不純物効果	HER
三 重 大 ・ 工	川 口 正 美	固体表面における吸着高分子鎖の形態の解明	SANS-U
東大物性研究所	門 脇 広 明	極端に重い電子系 CePt ₂ Sn ₃ の磁気励起	HER
阪 大 ・ 理	高 橋 泰 洋	高分子の結晶構造とダイナミックス	HQR
広島大・総合科	乾 雅 祝	液体カルコゲンの中性子小角散乱	SANS-U
山 口 大 ・ 理	増 山 博 行	A ₂ BX ₄ 型強誘電体の多形転移と格子振動	HER
東京都立大・理	神 木 正 史	Yb ₂ As ₃ のヘビーフェルミオン的異常と1次元特性	PONTA, HER
東京都立大・理	神 木 正 史	CePの磁気ポーラロン状態の偏極中性子による研究	PONTA
東京都立大・理	神 木 正 史	UGe ₂ の磁気励起	TOPAN, PONTA
静 岡 県 立 大	五 島 綾 子	逆ミセル中における酸素の存在状態についての小角中性子散乱による解明	SANS-U

所 属	代 表 者	研 究 課 題 名	装 置 名
京都大・原子炉	河 合 武	低磁場制御冷中性子偏極パルサーの開発	MINE
北海道大・低温研	片 桐 千 仞	中性子小角散乱法による昆虫リポホリンの構造解析	SANS-U
東京工業大・生命理研	星 元 紀	ヒトデ先体反応誘起物質（A R I S）の構造	SANS-U
愛媛大・工	富 吉 昇 一	Mn ₃ Sn中性子偏極モノクロメータの開発	PONTA
愛媛大・工	富 吉 昇 一	MnAl磁石の中性子回析による研究	KPD
愛媛大・工	富 吉 昇 一	有機磁性体の中性子回析	TOPAN
広島大・総合科	瀬 戸 秀 紀	高圧力下におけるマイクロエマルジョンの構造相転移と臨界現象	SANS-U
広島大・総合科	瀬 戸 秀 紀	マイクロエマルジョンの構造相転移に伴う界面活性剤膜の運動状態	NSE, AGNES
東京理科大	元 屋 清一郎	金属相酸化バナジウムの磁気構造と励起	TAS, HQR
東京理科大	元 屋 清一郎	高濃度スピングラスにおける長時間緩和	HQR, SANS-U
東京理科大	元 屋 清一郎	高濃度金属スピングラスの磁気励起	HER, TAS
東京都立大・理	岩 佐 和 晃	2次元希釈反強磁性体の磁気臨界散乱に現れるスピノ相関関数	TAS, HER
名古屋大・農	岡 田 鑑 彦	新規ペプチド含有ブロック共重合体の超分子構造の解明	SANS-U
九州大・理	日 高 昌 則	スピノ・パイエルス化合物CuGeO ₃ の結晶構造の中性子回折による研究	KSD, KPD
九州大・理	日 高 昌 則	二次元反強磁性体の中性子散乱による研究	HQR
京都大・化学	西 田 幸 次	高分子電解質溶液の構造	SANS-U
名古屋大・工	重 松 宏 武	Rb ₂ ZnBr ₄ の構造相転移とソフトフォノン	HER
奈良女子大・理	飯 田 雅 康	中性子散乱による両親媒性金属錯体の自己会合の研究	SANS-U
大阪大・理	田 代 孝 二	ポリエチレンブレンド試料における分子鎖の空間配置に関する研究	SANS-U, KPD
大阪大蛋白質研	佐 藤 衛	中性子溶液散乱法によるカイコ細胞質多角体病ウイルスの構造研究	SANS-U
北陸先端大・材	栗 栖 牧 生	メタ磁性体NdNi ₃ Snの磁気構造	HQR
東工大・工材研	八 島 正 知	ジルコニア固溶体の構造相転移のその場観察	KSD, KPD
新潟大・理	三 沢 正 勝	水-1プロパンノール-KCl系における上部・下部臨界点近傍の濃度ゆらぎ	SANS-U
新潟大・理	丸 山 健 二	IV-VI族混合液体の金属-非金属転移に伴う構造変化	TAS

所 属	代 表 者	研 究 課 題 名	装 置 名
早稲田大・理工	上江州 由 晃	リラクサー誘電体の極性マイクロ領域の構造	KPD
早稲田大・理工	上江州 由 晃	リラクサー単結晶における極性マイクロ領域のゆらぎと時間発展	TAS
千葉大・理	野 田 幸 男	(N D ₄)(S O ₄) ₂ の相転移とソフトフォノン	TAS
千葉大・理	野 田 幸 男	N D ₄ C l の準弾性散乱のダイナミクス	PONTA
埼玉大・理	上 床 美 也	磁性超伝導体R N i ₂ B ₂ C(R=H o)単結晶の中性子回折	PONTA
埼玉大・理	上 床 美 也	多結晶試料C eS cGe の中性子回折	KPD
福岡教育大・教	橋 本 侑 三	E r C u ₂ の磁気相図	HQR
福岡教育大・教	橋 本 侑 三	D y C u ₂ 化合物の磁気相転移	TAS
広島大・理	高 島 敏 郎	C eN iS n の低エネルギー・スキンギャップの検証	HER, PONTA
新潟大・工	佐 藤 峰 夫	スカンジウム含有化合物の構造とイオン伝導性	KPD
筑波大・物理	大 嶋 建 一	マルテンサイト変態を示す物質中に内在するクラスターの動的ゆらぎの研究	SANS-U
九州大・理	阿知波 紀 郎	非弾性中性子散乱法による[R u(N H ₃) ₆]C l ₂ のアンモニア分子回転	AGNES
九州大・理	阿知波 紀 郎	磁気薄膜によるトンネル中性子のスピンド干涉	MINE
愛媛大・理	丹 下 初 夫	非晶質ホイスラー合金の中性子回折	KPD
東北大・理	小 林 寿 夫	R-Mn-X(R:S i, G e)系化合物の磁気構造	KPD
東北大・理	上 村 孝	N i A s の比熱異常とフォノンの分散関係	TOPAN
東北学院大・工	菜 嶋 理	希土類金属間化合物R(N i, C u) ₂ S i ₂ の磁気構造の決定	KPD
原研・東海研	新 村 信 雄	リゾチーム結晶成長の機構解明—過飽和水溶液中の凝集体の構造—	SANS-U
東北大・金研	山 口 泰 男	正弦波変調構造におけるスピンド干涉	TOPAN
早稲田大・理工	山 田 安 定	Jahn-Teller ゆらぎのダイナミクスの研究	PONTA
東北大・金研	山 口 貞 衛	規則合金内に固溶した重水素原子の占有位置の決定	KPD
早稲田大・理工	山 田 安 定	短い水素結合系のプロトン基底状態	TAS
九州大・理	阿知波 紀 郎	中性子ラーモア回転による磁気多層膜の動力学回折	PONTA
東北大・工	小 野 泰 弘	遷移金属を含むB i層状化合物の中性子回折	KPD

所 属	代 表 者	研 究 課 題 名	装 置 名
東北大・工	小野泰弘	半磁性半導体 $Zn_{1-x}Mn_xTe$ の中性子非弾性散乱	AGNES
京都大・化研	金谷利治	ガラス形成高分子の密度ゆらぎの動的成分の評価	NSE
京都大・化研	金谷利治	熔融状態における高分子運動の素過程	AGNES
京都大・化研	金谷利治	アモルファス高分子における非ガウス性の評価	HER, TAS
東大・物性研	吉澤英樹	3d遷移金属酸化物のモット転移	TAS, HQR
東大・物性研	吉澤英樹	2次元三角格子反強磁性体のスピニ波励起	TAS, HER
東大・物性研	吉澤英樹	反強磁性と近藤効果の競合する系のスピニ揺動	HER, AGNES
東大・物性研	吉澤英樹	低キャリアー近藤格子 $CeAs$, $Ce0.9La0.1P$ の圧力効果	TAS, HER
関西医科大・医	木原裕	Structural Study on Chaperonin GroEL from <i>B. stearothermophilus</i> and its.....	SANS-U
東大・理	壽榮松宏仁	擬1次元モノレイヤ結晶における磁気相転移	HER
東北大・理	遠藤康夫	$La_{1-x}Sr_xMnO_3$ および $LaMnO_{3+\delta}$ の異常金属相におけるスピニダイナミクス	TOPAN, KPD
東京理科大・理	満田節生	$NdCu_6$ の磁場中磁気構造	PONTA
東京理科大・理	満田節生	三角格子反強磁性体 $CuFe_{1-x}Al_xO_2$ のスピニ密度波	TAS
福井大・工	目片守	強い競合系におけるスピニ波分散	TAS
理化学研究所	川野はづき	金属間化合物ホウ素炭化物超伝導体の中性子非弾性散乱	TAS
上智大・理工	田中秀数	二重スピニ鎖系 $KCuCl_3$ のエネルギーギャップと磁気励起	HER
上智大・理工	田中秀数	ハイゼンベルク極限の三角格子反強磁性体の臨界現象と磁気励起	HQR
京都大・原子炉	海老沢徹	多層膜中性子干渉計の特性試験と可干渉実験	MINE
京都大・原子炉	海老沢徹	スピニ中性子干渉計の開発とその応用	MINE
東大・物性研	西正和	$CuGeO_3$ 及び不純物置換 $CuGe_{1-x}M_xO_3$ の常磁性散乱	PONTA
東大・物性研	西正和	不純物置換型 $CuGe_{1-x}M_xO_3$ の反強磁性相における中性子スピニ・エコー法による解析	IMT
東大・物性研	西正和	一軸性圧力による $CuGeO_3$ の物性研究	PONTA, HQR
京都大・原子炉	田崎誠司	多層膜中性子反射鏡の性能改善のための中性子反射率計測定	MINE
東大・物性研	加倉井和久	Investigation of Rotational States in $(NH_3)_6Ni(PF_6)_2$	PONTA

所 属	代 表 者	研 究 課 題 名	装 置 名
東大・物性研	加倉井 和 久	スピニエコー分光法を用いたSrTiO ₃ の相転移の研究	PONTA
東大・物性研	加倉井 和 久	ABX ₃ 系における量子スピンゆらぎの研究	PONTA, HER
東大・物性研	西 正 和	一次元磁性体CuGeO ₃ における2マグノン散乱	PONTA
東大・物性研	西 正 和	CuGeO ₃ の中性子非弾性散乱	HER
東大・物性研	西 正 和	TTF-CAにおける中性・イオン性転移	PONTA, HER
東大・物性研	大 原 泰 明	メタ磁性転移するCe ₅ Si ₃ の研究	HQR, HER,
東大・物性研	大 原 泰 明	フラストレートした系のスピンドイナミックス	PONTA
名古屋大・理	西 岡 孝	スーパー-ヘビーフェルミオンU ₂ Cu ₈ Al ₉ の中性子散乱	TAS, HER
東大・物性研	大 原 泰 明	二次元三角格子反強磁性体AgCrO ₂ の不整合磁気構造	HQR, HER
慶應大・理工	安西 修一郎	NiSの金属相に於けるスピニ相関	PONTA
福井大・工	目 片 守	三角格子反強磁性体の動的臨界指数	HER, PONTA
名古屋大・理	紺 谷 雅 昭	非フェルミ液体系UCu _{4+x} Al _{8-x} の中性子散乱	TAS
東大・物性研	門脇 広 明	準二次元三角格子反強磁性体の研究	TAS
東大・物性研	門脇 広 明	超伝導CeRu ₃ の電子状態	PONTA
東大・物性研	門脇 広 明	重い電子系化合物におけるメタ磁性と反強磁性相関の関係	TAS
お茶の水大・理	伊藤 厚子	希釈反強磁性体Mn _x g _{1-x} TiO ₃ の磁場-温度相図	PONTA
お茶の水大・理	伊藤 厚子	ボンドランダムフラストレーション系Fe(Br _x I _{1-x}) ₂ の磁気構造	HRQ
山梨大・教	伊藤 雄而	中性子スペクトル変調時間分析装置	NSM (IMT)
東北大金研	山口 泰男	単結晶中性子回折装置	KSD (IMT)
東大・物性研	松下裕秀	二次元位置測定小角散乱装置	SANS-U (IMT)
東北大金研	大橋正義	粉末中性子回折装置	KPD (IMT)
大阪大・理	河原崎 修三	高エネルギー分解能3軸型中性子分光器	HER (IMT)
大阪大・理	河原崎 修三	アクセサリー	アクセサリー (IMT)
東大・物性研	高橋 敏男	高分解能後方散乱装置	ULS (IMT)

所 属	代 表 者	研 究 課 題 名	装 置 名
早稲田大・理工	角 田 順 彦	高分解能中性子散乱装置	HQR (IMT)
九州大・理	日 高 昌 則	熱蛍光体検出器による構造相転移の研究	HER , KSD (IMT)
東北大・工	梶 谷 剛	冷中性子分光器AGNES	AGNES (IMT)
東大・物性研	吉 沢 英 樹	汎用3軸型中性子分光器(GPTAS)	TAS (IMT)
東北大・理	廣 田 和 馬	TOPAN(東北大学偏極中性子分光装置)	TOPAN (IMT)
京大原子炉	海老沢 徹	多層膜中性子干渉計、反射率計	MINE (IMT)
東大・物性研	加倉井 和 久	PONTA(5G)の整備及び偏極中性子散乱モードの開発	PONTA (IMT)
東大・物性研	加倉井 和 久	PONTA(5G)熱中性子三軸スピニエコー実験方法の開発	PONTA (IMT)
東大・物性研	加倉井 和 久	超低温下における中性子散乱	HQR , HER (IMT)
広島大・総合科	好 村 滋 洋	中性子スピニエコーフィルタ	NSE (IMT)

東大物性研共第 2 号
平成 8 年 5 月 1 日

関係各研究機関の長 殿

東京大学物性研究所長
安 岡 弘 志
(公印省略)

平成 8 年度 後期共同利用の公募について（通知）

このことについて、下記のとおり公募しますので、貴機関の研究者にこの旨周知くださるようお願いします。

記

1 公募事項（添付の要項参照）

- (1) 留学研究員 (平成 8 年 10 月～平成 9 年 3 月実施分)
- (2) 共同利用(一般・SOR・スーパーコンピュータ) (平成 8 年 10 月～平成 9 年 3 月実施分)
- (3) 短期研究会 (平成 8 年 10 月～平成 9 年 3 月実施分)

2 申請資格

国公私立大学及び国公立研究機関の教官、研究者並びにこれに準ずる者。

3 申請方法

- (1) 共同利用については、外来研究員申請書を提出すること。
ただし、軌道放射物性研究施設及びスーパーコンピュータの共同利用については、申請方法が異なるので 6 ～ 10 ページを参照の上、申請すること。
- (2) 短期研究会については、提案代表者より短期研究会申請書を提出すること。

4 申請期限

- (1) SOR の共同利用 平成 8 年 6 月 14 日(金)必着
- (2) その他の共同利用 平成 8 年 6 月 28 日(金)必着

5 申込先

〒106 東京都港区六本木7丁目22番1号
東京大学物性研究所 総務課共同利用掛
電話(03)3478-6811 内線5031, 5032

6 審査

研究課題の採否、所要経費の査定等は共同利用施設専門委員会において行い、教授会で決定する。

7 採否の判定

平成8年9月下旬

8 研究報告

共同利用研究（共同利用及び留学研究員）については一期（半年）ごとに実施報告書（所定の様式による）を提出のこと。

また、共同利用研究によって得た成果の論文の別刷2部を、総務課共同利用掛あて提出のこと。

9 宿泊施設

- (1) 東京大学物性研究所共同利用研究員宿泊施設が利用できる。
- (2) 軌道放射物性研究施設の共同利用については、東京大学原子核研究所共同利用研究員宿泊施設が利用できる。

10 学生教育研究災害傷害保険の加入

大学院学生は『学生教育研究災害傷害保険』に加入されるようご配慮願いたい。

外 来 研 究 員 に つ い て

物性研究所においては、共同利用研究業務として、全国物性研究者の研究遂行に資するため、各種研究员制度が設けられています。これら研究员の公募は、半年ごとに行っております。外来研究员制度は、個々の申請を検討の上、実行されておりますが、特別な事情のある場合を除いて、あらかじめ共同利用施設専門委員会の了承を得る建前をとっておりますので、下記ご参照の上、期日までに応募されるようお願いします。

その他、外来研究员制度の内容あるいは利用する設備等についてお分かりにならないことがあれば、外来研究员等委員会委員長 後藤 恒昭（内線5121）までご連絡ください。

「留学研究员」又は「共同利用」に申請される場合は、事前に必ず利用される研究室等の教官と打ち合わせの上、申請書を提出してください。

なお、「一般の共同利用」の場合は、一研究課題に許される修士課程の学生数は一名を原則とします。

申請書用紙が必要な方は、総務課共同利用掛（内線5031、5032）までご請求ください。

記

1 各種外来研究员

(1) 嘴 託 研 究 員

- ① 所外研究者に本所の研究計画及び共同研究計画の遂行上必要な研究を委嘱することを目的としています。
- ② 嘴託研究员の委嘱は、本所所員の申請に基づいて、研究計画等を検討の上、決定します。

(2) 留 学 研 究 員

- ① 大学、官庁、その他の公的研究機関に在籍する若い研究者に、留学の便宜を提供することを目的とした制度です。
- ② 資格としては、助手ないし大学院博士課程程度の研究歴に相当する方を対象としています。
- ③ 研究は所員の指導の下で行います。大学院学生の場合、原則として指導教官を嘴託研究员に委嘱します。
- ④ 申請は、別紙（様式1）の申請書を提出してください。

(3) 共 同 利 用

○ 一般の共同利用

- ① 所外研究者が研究の必要上、本所の施設を利用したい場合、その便宜を提供できるよう

にしております。

② 一般の共同利用は、「共同研究」と「施設利用」の二つの形態に分けられます。「共同研究」と「施設利用」では採択率、充足率が異なる場合があります。

また、「共同研究」、「施設利用」それぞれに、1年以内に研究を集中して遂行する「短期集中型」の利用形態が設けられています。「短期集中型」を希望して認められた場合には充足率を高くしますが、その後しばらくの期間、共同利用を見合せていただくことがあります。

③ 申請は、別紙（様式2）の申請書を提出してください。

- 軌道放射物性研究施設の共同利用（6ページ参照）
- スーパーコンピュータの共同利用（8ページ参照）

2 採否決定

上記各種外来研究員受入れの可否は、共同利用施設専門委員会において、申請された研究計画、研究歴及び所内諸条件を審査検討し、教授会で決定します。

採択された共同利用研究の中で、放射線施設を利用される方には、「外来研究員等の放射線管理内規」に従って、別紙（様式6）の「放射線業務従事承認書」を提出していただきます。

3 実施報告書

留学研究員及び共同利用で来所の方には、一期（半年）ごとに終了後30日以内に別紙（共同研究及び短期集中型の施設利用は様式4、一般的の施設利用及び留学研究員は様式5）による外来研究員実施報告書を提出していただきます。

4 別刷の提出

外来研究員として来所されて行われた研究に関する論文の別刷2部を必ず総務課共同利用掛に提出してください。

また、論文を発表される場合、謝辞の所に東京大学物性研究所の共同利用による旨の文章を入れていただくことを希望します。英文の場合の参考として、次のような例文をあげておきます。

（例1）This work was carried out under the Visiting Researcher's Program of the Institute for Solid State Physics, the University of Tokyo.

（例2）This work was carried out by the joint research in the Institute for Solid State Physics, the University of Tokyo.

（例3）This work was performed using facilities of the Institute for Solid State Physics, the University of Tokyo.

5 経 費

旅費、滞在費及び研究に要する経費は、個々の申請に基づいて共同利用施設専門委員会で査定・審査し、教授会の決定に基づき共同利用施設運営費から支出します。

6 そ の 他

- (1) 予算の支出、諸施設の利用、設備の管理等については、関係する所員の指示に従ってください。
- (2) 申請書は、必ず別紙様式のものを使用してください。

軌道放射物性研究施設の共同利用について

0.5GeV電子ストリーリング(SOR-RING)からの放射光を用いる共同利用実験の申込みについては、マシンタイムの調整を行う必要上、共同利用の正式申込みの以前に下記の要領で軌道放射物性研究施設あて申し込んでください。

1 対象となる実験

ES及びSOR-RINGからの放射光を利用する実験。

2 実験期間

平成8年10月中旬から平成9年3月中旬までの期間で、利用できるマシンタイムは総計約3か月間。

ただし、各ビームラインによって多少異なります。

3 利用できる設備

(1) SOR-RING第1ビームライン

1M縦分散瀬谷－波岡型直入射分光器

(2) SOR-RING第2ビームライン

2M縦分散変形ローランド型斜入射分光器、光電子分光測定装置一式

(3) SOR-RING第3ビームライン

自由ポート

(4) SOR-RING第4ビームライン

平面回折格子型斜入射分光器

(5) SOR-RING第5ビームライン

(6) SOR-RING第1'ビームライン

自由ポート

なお、第3、第4ビームラインでの実験及び準備研究的な実験については、申込み前に当施設にご相談ください。

4 申込み要領

- (1) 希望するビームライン
- (2) 申請研究課題
- (3) 申請代表者及び実験参加者、所属・職・氏名
- (4) 実験期間
- (5) 実験の目的・意義及び背景（1,000字程度でわかりやすく書いてください。）
- (6) 関連分野における申請者のこれまでの業績（5編以内）
- (7) 実験の方法（800字程度。危険物や超高真空系を汚染する可能性のある物質等を使用する場合は、明示の上、安全対策の方法を記すこと。）
- (8) 使用装置（持込み機器も含めて）
- (9) 物性研共同利用施設運営費からの負担を希望する消耗品の種類（液体窒素、銅ガスケットなど）と費用の概算

上記項目について記入した申請書のコピー8部（A4版横書き）を、下記申込先あて送付してください。

5 申込み先

〒188 東京都田無市緑町3丁目2番1号

東京大学物性研究所軌道放射物性研究施設

電話 (0424) 69-2151 (ダイヤルイン)

FAX (0424) 61-5401

(「共同利用申込み」と表記のこと)

6 申込み期限 平成8年6月14日(金)必着

7 審査

軌道放射物性研究施設運営委員会において審査し、採用された研究課題については、その実験計画に従い、改めて外来研究員申請書（様式2）及び放射線業務従事承認書（様式6）を直接総務課共同利用掛（〒106 東京都港区六本木7丁目22番1号 東京大学物性研究所）に提出していただきます。

スーパーコンピュータの共同利用について

物性研究所では、物性物理学の研究のための共同利用スーパーコンピュータを運用しています。他の計算機センターではできないような大規模計算による研究プロジェクトや先端的な計算手法の開発などに重点を置いて運用しており、利用課題の審査に際しても、研究プロジェクトの目的、その計画と方法、特色を重視します。

1 利用課金

利用課金は差し当たり所外利用者からは徴収しませんが、予算の関係上場合によっては、消耗品等を何らかの方法で負担していただくことがあります。

2 申請課題クラス

課題申請は、電子計算機C P U時間等によって以下のクラスA, B, C, D, Eに分けて受け付けますが、このうち年2回の締め切りとなるB, C及びEを優先します。全く異なる課題を平行して行う場合は、同一の研究者が複数の課題を行うことになりますが、類似した課題は一つにまとめるようにしてください。

A（小型）：申請利用金額が400Kポイント以下の課題。

各月の末日が締切りで翌々月の1日から年度末まで利用できます。本クラスへの申請は一ヶ月ごとに1回だけとします。また、A以外のクラスすでに利用している研究代表者（グループ）の申請は受け付けません。

B（一般）：申請利用金額が3000Kポイント以下の課題。

一般の共同利用申請期限と同時（前期は12月下旬、後期は6月28日）に締め切り、それぞれ4月1日、10月1日から年度末まで利用できます。なお、本クラスを複数申請される場合には、本クラスの申請課題の総ポイント数は、一研究代表者（グループ）当たり5000Kポイント以下とします。

C（重点）：研究計画が具体的であり（研究課題が絞り込まれている、準備的計算が十分なされている、など）、かつ、物性物理学の発展に寄与する重要な研究課題に対して計算時間を重点的に支援するためのクラスです。申請利用金額に制限はありません。

一般の共同利用申請期限と同時（前期は12月下旬、後期は6月28日）に締め切り、それぞれ4月1日、10月1日から年度末まで利用できます。

D（緊急）：Cクラス相当の課題で、特に研究の進捗が著しく、緊急の計算を要するもののためのクラスです。申請利用金額に制限はありません。

随時受け付け、B及びCによる利用が可能となる次の4月1日又は10月1日の前

日までの期間利用できます。

E（大規模プロジェクト）： Cクラス相当の課題が複数個からなる大規模共同研究のためのクラスです。申請利用金額に制限はありません。本プロジェクトの提案については、物性研計算機室、若しくはスーパーコンピュータ共同利用委員会委員にご相談ください。

3 課題申請の手続き

利用を希望するときは、以下の手続きによりスーパーコンピュータ共同利用課題申請を行ってください。複数の研究課題で申請する場合には、研究課題ごとに手続きを行ってください。

- (1) 電子メールを使って計算機システムへの登録情報を送ってください。そのために、まず、「Subject:info」とした空のメールを

touroku@issp.u-tokyo.ac.jp

に送ってください。折り返し当研究所のスーパーコンピュータシステムに関する情報と登録情報の送付方法がメールで送られてきますので、指示に従ってください。

なお、同じ内容は物性研のwwwホームページ(<http://www.issp.u-tokyo.ac.jp/labs/center>)で見ることもできます。

- (2) 上記の手続きとは別に、所定の申込書（紙にプリントアウトしたもの）に記入・捺印し、下記に送付してください。申請方法その他についての問い合わせも受け付けます。

〒106 東京都港区六本木 7 丁目22番1号

東京大学物性研究所 電子計算機室

電話(03)3478-6811 内線5942

- (3) 申込書のフォーマットは、「Subject:stylefile」とした空のメールを

touroku@issp.u-tokyo.ac.jp

に送ると、折り返しLaTeX のスタイルファイル及びサンプルとして送られてきます。

申込書のフォーマットは、anonymous ftp により入手することもできます。

ftp site:ftp.issp.u-tokyo.ac.jp

directory:/pub/shinsei/

file:

class-A.ps, class-B.ps, class-C.ps, class-D.ps

各申請課題クラスの申込書です。

LaTeXをご利用にならない方は、上記のファイルをプリントアウトしてご利用ください。

ISSP-application-set

LaTeXのスタイルファイルとサンプルです。このファイルは電子メールにより入手できるものと同じです。

4 採否決定

プロジェクト課題の採否、利用金額の割り当ては、スーパーコンピュータ共同利用委員会の審査を経て、教授会で決定します。

5 利用

所外から電話公衆網又はインターネットを経由したネットワークによってスーパーコンピュータを利用することができます。また、利用が許可された期間中は、物性研究所電子計算機室がオープンしているかぎり、隨時来所利用されてもかまいません。(旅費は支給されません。)

6 利用報告書

次年度初めに利用報告書をスーパーコンピュータ共同利用委員会委員長あて提出していただきます。書式は別途連絡します。

7 研究成果の出版

スーパーコンピュータの共同利用による研究の成果が出版される場合には、必ず「物性研究所スーパーコンピュータを利用した。」旨を論文中に明記し、また、その別刷1部を物性研究所電子計算機室あて送付してください。

(例1) The authors thank the Supercomputer Center, Institute for Solid State Physics, University of Tokyo for the facilities and the use of the FACOM VPP500.

(例2) The computation in this work has been done using the facilities of the Supercomputer Center, Institute for Solid State Physics, University of Tokyo.

短期研究会について

短期研究会は、物性研究上興味深い特定のテーマについて全国の研究者が1～3日間程度研究会を開き、集中的に討議するもので、提案代表者は内容、規模等について関係研究者と十分検討の上、申請してください。

記

1 申 請 方 法

提案代表者は別紙申請書（様式3）を提出してください。
なお、提案者の中に、本所所員が1名以上必要です。

2 提案理由の説明

提案代表者は、内容、規模等について共同利用施設専門委員会で説明していく だきます。

3 採 否 決 定

共同利用施設専門委員会の審議を経て、教授会で決定します。

4 経 費

共同利用施設専門委員会で査定・審査し、教授会の決定に基づき共同利用施設運営費から支出します。（1件当たりの申請金額については、50万円程度を目安 としてください。）

5 報 告 書

提案代表者は、研究会終了後速やかに「物性研だより」に掲載する研究会報告書を提出してください。執筆に関する要領は別にお知らせします。

共同利用施設専門委員会委員

大野公一	東北大(理)	榎敏明	東工大(理)
西嶋光昭	京大(理)	遠藤康夫	東北大(理)
君嶋義英	横浜国大(工)	倉本義夫	東北大(理)
本河光博	東北大(金材研)	斯波弘行	東工大(理)
秋光純	青山学院大(理工)	梶田晃示	東邦大(理)
福山秀敏	東大(理)	鈴木治彦	金沢大(理)
石黒武彦	京大(理)	菅滋正大	阪大(基礎工)
藤井博信	広島大(総合)	大貫惇睦	阪大(理)
山田耕作	京大(理)	宮下精二	阪大(理)
下村理	高エネルギー物理学研究所	壽榮松宏仁	東大(理)
小杉信博	分子科学研究所	その他物性研究所員	

外来研究員等の放射線管理内規

(昭和57.7.21制定)

放射線障害予防規程第45条第3項に定める外来研究員等の放射線管理については以下のとおりとする。

1. 六本木地区

- (1) 物性研究所放射線管理室（以下「管理室」という。）は、外来研究員等の共同利用申込が承認された時に、その所属する大学又は事業所に対し「物性研究所の放射線施設を利用する外来研究員等の派遣についての了解事項」及び「放射線業務従事承認書」を送付する。
- (2) 外来研究員等は、放射線取扱いに先立って「放射線業務従事承認書」を管理室に提出するものとする。
- (3) 本所の放射線施設及び放射線発生装置等を初めて利用する外来研究員等に対し、当該施設の放射線管理責任者は、放射線取扱いの開始前に放射線発生装置あるいは放射性物質等の安全取扱い、立入記録の記入等についての教育訓練を実施する。
- (4) 放射線管理責任者は、外来研究員等について、フィルムバッジ等の着用の有無を確認し、それ等を持たない場合は、個人被曝線量計を貸与し被曝線量当量を測定し記録するものとする。

2. 日本原子力研究所内（東海村）－中性子散乱実験装置

中性子散乱実験装置等を利用する外来研究員等は、日本原子力研究所で定める放射線管理上の所要手続きをしなければならない。

3. 東大原子核研究所内（田無市）－軌道放射物性研究施設

軌道放射物性研究施設を利用する外来研究員等の放射線管理については、「軌道放射物性研究施設に係る覚書」によって行う。

4. 高エネルギー物理学研究所内設置の軌道放射物性研究施設分室を利用する外来研究員等は、高エネルギー物理学研究所で定める放射線管理上の所要手続きをしなければならない。

附 則

この内規は、平成元年4月1日から施行する。

物性研究所の放射線施設を利用する 外来研究員等の派遣についての了解事項

1. 外来研究員等及び所属機関の責任者は、物性研究所の放射線施設の利用に際して、以下の事項を承諾するものとする。
 2. 外来研究員等は、本所放射線障害予防規程及び当該放射線施設の管理内規に従う。
 3. 外来研究員等が利用する放射線施設等に係る管理責任（放射線発生装置、放射性物質の安全取扱い、管理区域等の線量当量の測定等の管理）は、物性研究所にあるが、「放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律」等で定める放射線業務従事者としての認可及び個人管理は、外来研究員等の所属機関の責任において行う。
放射線業務従事者としての認可及び個人管理とは、
 - (1) 教育訓練（物性研究所における放射線発生装置等の安全取扱いに係る教育訓練は除く）の受講
 - (2) 血液検査などの健康管理
 - (3) 個人被曝線量当量の測定
 - (4) 放射線業務に従事することの可否の判定
4. 放射線業務に従事する外来研究員等は、所属機関の放射線取扱主任者及び管理責任者が認める放射線業務従事承認書を、物性研究所放射線管理室に提出する。
5. 個人被曝線量計（フィルムバッジ等）は、原則として所属機関より持参し、着装して放射線業務に従事するものとする。
但し、個人被曝線量計のない場合は、当該施設又は放射線管理室が貸与する。

外来研究員（留学研究員）申請書

No.

平成 年 月 日

東京大学物性研究所長 殿

所 属 _____

職名又は学年 _____

ふりがな
氏 名 _____ @

級号俸 級 号俸

級号俸発令年月日（ 年 月 日）

申請者の連絡先 電話 内線

FAX _____

下記研究計画により留学研究員として貴所で研究したいので申請します。

研究題目

研究目的

○研究予定期間 平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日

○研究の実施計画（使用装置・方法等詳細に。）

○放射線業務に従事することの有無。 有 • 無 (○で囲むこと)

希望部門 研究室名 (部門 研究室)

他の研究室、共通実験室への共同利用を同時に申請していますか。 していない している
申請している場合の研究室、共通実験室名 (

※ 本様式をコピーして使用する場合は、A4版両面コピーとしてください。

※ 採択された共同利用研究の中で、放射線施設を利用される方には、「外来研究員等の放射線管理内規」に従って、
「放射線業務従事承認書」（様式6）を提出していただきます。

① 宿泊を必要としない申請者（日帰り）

月　　日　～	月　　日	(　週・月　　日　)
月　　日　～	月　　日	(　週・月　　日　)
月　　日　～	月　　日	(　週・月　　日　)

② 宿泊を必要とする申請者

月　　日　～	月　　日(　泊　　日)	月　　日　～	月　　日(　泊　　日)
月　　日　～	月　　日(　泊　　日)	月　　日　～	月　　日(　泊　　日)
月　　日　～	月　　日(　泊　　日)	月　　日　～	月　　日(　泊　　日)

物性研宿泊施設 原子核研宿泊施設 その他

③ この共同利用の際、貴所属機関から、鉄道賃、日当、宿泊料が支給されますか。

される されない

利用頻度 : ① 新規 ② 過去5年間何回位利用していますか。 (回)

略歴（大学院学生は学歴を記入すること。）

上記のとおり、申請者が貴研究所において研究に従事することを承諾します。

平成　　年　　月　　日

申請者の所属長職・氏名

印

外来研究員（共同利用）申請書

No.

平成 年 月 日

東京大学物性研究所長 殿

所 属 _____

職名又は学年 _____

ふりがな
氏 名 _____ ㊞

級号俸 級 号俸

級号俸発令年月日 (年 月 日)

申請者の連絡先 電話 内線 _____

FAX _____

下記研究計画により外来研究員として貴所で研究したいので申請します。

研究題目 (グループで研究する場合は、代表者以外の者は代表者名を記入すること。)

研究目的 (グループで研究する場合は代表者のみ記入すること。)

○研究の実施計画 (使用装置・方法等詳細に。) (グループで研究する場合は代表者のみ記入すること。)

○共同研究・施設利用 を希望する。 (○で囲むこと)

○短期集中型を希望する場合、期間 (原則として 1 年以内) を明記してください。

平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日

○放射線業務に従事することの有無。 有 • 無 (○で囲むこと)

希望部門 研究室名 (部門 研究室)

他の研究室、共通実験室への共同利用を同時に申請していますか。
□していない □している
申請している場合の研究室、共通実験室名 (

※ 本様式をコピーして使用する場合は、 A4 版両面コピーとしてください。

※ 採択された共同利用研究の中で、放射線施設を利用される方には、「外来研究員等の放射線管理内規」従って、
「放射線業務従事承認書」（様式 6）を提出していただきます。

① 宿泊を必要としない申請者（日帰り）

月　　日～　　月　　日　　(　週・月　　日　)

月　　日～　　月　　日　　(　週・月　　日　)

月　　日～　　月　　日　　(　週・月　　日　)

② 宿泊を必要とする申請者

月　　日～　　月　　日（　泊　　日）　　月　　日～　　月　　日（　泊　　日）

月　　日～　　月　　日（　泊　　日）　　月　　日～　　月　　日（　泊　　日）

月　　日～　　月　　日（　泊　　日）　　月　　日～　　月　　日（　泊　　日）

物性研宿泊施設 原子核研宿泊施設 その他

③ この共同利用の際、貴所属機関から、鉄道賃、日当、宿泊料が支給されますか。

される されない

利用頻度 : ① 新規 ② 過去 5 年間何回位利用していますか。 (回)

略歴（大学院学生は学歴を記入すること。）

上記のとおり、申請者が貴研究所において研究に従事することを承諾します。

平成　　年　　月　　日

申請者の所属長職・氏名

印

様式 3-1

短 期 研 究 会 申 請 書

平成 年 月 日

東京大学物性研究所長 殿

提案代表者

所 属

職 名

氏 名

㊞

連絡先 電 話 内線

F A X

下記のとおり短期研究会の開催を提案したいので申請します。

記

1 研究会の名称

2 提案理由

理由書は、400字以上600字まで（A4版横書き）とし、提案理由及び研究会内容がよくわかるように記載してください。

特に物性研で開催することの必要性や意義を明記してください。

3 開催期間

平成 年 月 日 ～ 平成 年 月 日 (日間)

開始時間 _____ :

4 参加予定者数 約 名

5 希望事項 (○で囲む)

予稿集 : 有 • 無 その他希望事項

公開 • 非公開

6 その他(代表者以外の提案者)

所属機関・職名を記入のこと

7 旅費の支給を必要とする者

	氏名	所属	職名
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			

様式 3 - 3

8 その他主要参加者

	氏名	所属	職名
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			

様式 4

平成 年 月 日

外 来 研究 員 共 同 研究 実施 報告 書
施設 利用 (短期集中型)

東京大学物性研究所長 殿

所 属

職 名

氏 名

㊞

下記のとおり貴研究所の施設を利用しましたので、報告します。

記

1 研究題目

2 利用期間 平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日

3 利用研究室または
共通実験室名 _____

4 共同研究者氏名及び所属職名

氏 名	職 名	所 属 名	備 考

5 研究実施経過（利用機器、利用手段・方法、約 1,000字（A4版横書き））

6 成果の公表の方法（投稿予定の論文のタイトル、雑誌名など。短期集中型の場合は終了時のみ）

注 意

(1) グループ研究の場合、代表者が記入のこと。

(2) 各期終了後30日以内に提出すること。

※ 本様式をコピーして使用する場合は、A4版としてください。

様式 5

平成 年 月 日

外 来 研 究 員 施 設 利 用 実 施 報 告 書
留 学 研 究 員

東京大学物性研究所長 殿

所 属

職 名

氏 名

㊞

下記のとおり貴研究所の施設を利用しましたので、報告します。

記

1 研究題目

2 利用期間 平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日

3 利用研究室または
共通実験室名 _____

4 共同研究者氏名及び所属職名

氏 名	職 名	所 属 名	備 考

5 研究実施経過（利用機器、利用手段・方法、成果、約 400字（A4版横書き））

注 意

- (1) グループ研究の場合、代表者が記入のこと。
- (2) 各期終了後30日以内に提出すること。
※ 本様式をコピーして使用する場合は、A4版としてください。

樣式 6

平成 年 月 日

放射線業務從事承認書

東京大学物性研究所長 殿

機 関 名

所 在 地

放射線取扱主任者名

四

所属機関代表者名

甲

当機関は、「物性研究所の放射線施設を利用する外来研究員等の派遣についての了解事項」を承諾して、下記の者が貴研究所において放射線業務に従事することを承認しましたので、よろしくお願ひします。

なお、下記の者については、当機関において放射線障害防止法、あるいは人事院規則（10-5）等の法規に基づいて放射線業務従事者として管理が行われていることを証明します。

記

氏名	年令	身分	所属学科・部課等	年現在の合計被曝線量当量(mSv)	過去1年間の被曝線量当量(mSv)
放射線業務従事期間			年 月	日から	年 月
物性研究所利用施設					日まで

(注) この承認書の有効期間は、年度末までです。

※ 本様式をコピーして使用する場合は、A4版としてください。

物性研究所物性科学入門講座

－物質の示す多彩な現象－

日 時 平成 8 年 6 月 26 日(水) 13:00~18:00

場 所 東京大学生産技術研究所 第 1 会議室

講義スケジュール

13:00 ~13:05	所長挨拶
13:05 ~14:35	高田康民 多電子問題入門 進行 今田正俊
14:35 ~14:45	休憩
14:45 ~16:15	末元徹 物性研究におけるレーザー分光の最先端 進行 加藤礼三
16:15 ~16:30	休憩
16:30 ~18:00	河野公俊 超流動ヘリウム界面での変わったできごと 進行 勝本信吾
18:00	閉構

東京大学物性研究所における大学院修士 及び博士課程進学ガイダンス

(物理学・化学・地球物理学・鉱物学・物理工学・超伝導工学各専攻)

日 時：平成 8 年 6 月 27 日（木）12：45～

集合場所：東京都港区六本木 7-22-1

東京大学生産技術研究所内

第 1 会議室

行事予定：

12：45～13：00 概要説明：生研第 1 会議室

所長挨拶・コース内容説明（要覧・パンフレット）

13：00～13：30 物性研紹介ビデオ映写

13：30～13：40 各コースの人数を確認後、それぞれのコース毎に A 棟へ移動

13：40～16：30 研究室見学：A 棟各研究室

A（物理工学・超伝導工学）コース

B（化学・地学・鉱物）コース

C（物理実験 1）コース

D（物理実験 2）コース

E（物理理論）コース

16：30～17：30 懇親会：Q 棟 2 階第一会議室

所長挨拶・各教官と懇談

17：30～ 自由見学：A 棟各研究室

Technical Report of ISSP 新刊リスト

Ser. A

- No. 3105 Slow Dynamics in the 'Griffiths Phase' of the 3D $\pm J$ Ising Spin Glass, by Tatsuo Komori and Hajime Takayama.
- No. 3106 Magnetic Responses of Mean-Field Ising Models for Reentrant Spin Glasses, by Hajime Takayama.
- No. 3107 Ti 2p and Resonant 3d Photoemission Spectra of Ti_2O_3 , by Takayuki Uozumi, Kozo Okada, Akio Kotani, Yasuhisa Tezuka and Shik Shin.
- No. 3108 Ferromagnetism-Induced Reentrant Structural Transition and Phase Diagram of a Lightly Doped Insulating $La_{1-x}Sr_xMnO_3$ with $x \leq 0.17$, by H. Kawano, R. Kajimoto, M. Kubota and H. Yoshizawa.
- No. 3109 Self-Consistent Results in Quantum Wires in Magnetic Fields: Temperature Effects, by Tatsuo Suzuki and Tsuneya Ando.
- No. 3110 Analysis of Antidot Lattices with Periodic Orbit Theory, by Seiji Uryu and Tsuneya Ando.
- No. 3111 AAS Oscillations in Antidot Lattices, by Takeshi Nakanishi and Tsuneya Ando.
- No. 3112 Carbon Nanotubes: Effects of Magnetic Fields on Lattice Distortions, by Hiroshi Ajiki and Tsuneya Ando.
- No. 3113 Magnetic Susceptibility of a Quasi-One-Dimensional Compound α' - NaV_2O_5 --A Possible Spin-Peierls Compound with Highest Critical Temperature of 34 K--, by Masahito Isobe and Yutaka Ueda.
- No. 3114 Nonlinear Transport of the Electron Crystal by Kimitoshi Kono and Keiya Shirahama.
- No. 3115 Low-Temperature Physical Properties of Polycrystal and Single Crystal of $CePt_2Sn_2$, by Naoya Takeda, Masayasu Ishikawa, Toshiro Takabatake and Toru Shigeoka.

- No. 3116 Superfluid-Insulator Transition of Interacting Multi-Component Bosons --Gutzwiller Variational and Quantum Monte Carlo Study--, by Yukitoshi Motome and Masatoshi Imada.
- No. 3117 STM Study of Laser-Induced Desorption from Silicon(111) Surfaces with Adsorbates, by Fumio Komori, Ken-ichi Shudo, Ken Hattori, Takushi Iimori and Yoshitada Murata.
- No. 3118 Universal Low-Temperature Properties of Quantum and Classical Ferromagnetic Chains, by Minoru Takahashi, Hiroaki Nakamura and Subir Sachdev.
- No. 3119 Review of Helium-like Recombination Pumped Soft-X-Ray Lasers, by Hiroto Kuroda, Tsuneyuki Ozaki, Satoshi Orimo, Jiro Itatani, Teruo Kanai, Jia-Qi Liang, and Chang-Jun Zhu.
- No. 3120 Atomic Diffusion and Electronic Structures of Ce/Ni(110) and Ce/Cu(110) Systems, by T. Okane, M. Yamada, S. Suzuki, S. Sato, A. Kakizaki, T. Kobayashi, S. Shimoda, M. Iwaki and M. Aono.
- No. 3121 Lattice Strains in Crystals under Uniaxial Stress Field, by Takeyuki Uchida, Nobumasa Funamori and Takehiko Yagi.
- No. 3122 Electronic Raman Scattering of Photoexcited Electrons in Germanium, by Hideyuki Otake, Koichiro Tanaka, Takeyo Tsukamoto and Tohru Suemoto.
- No. 3123 Magnetization Process and Magnetic Structure of the TmFe₂H_{3.4} Hydride in Ultrahigh Magnetic Fields up to 100 T, by N. V. Mushnikov, N. K. Zajkov, M. I. Bartashevich, T. Goto, H. Aruga-Katori, M. Yamaguchi and I. Yamamoto.
- No. 3124 Electronic States in Antidot Lattices: Scattering-Matrix Formation, by Seiji Uryu and Tsyneya Ando.



Activity Reoprt of Synchrotron Radiation Laboratory, 1994.

'96 第41回物性若手夏の学校

期　　日　　1996年8月1日(木)～8月4日(日)

場　　所　　ホテルサニー志賀

381-04　長野県下高井郡山ノ内町志賀高原

電　　話　　0269-34-2604

F A X　　0269-34-3035

日　　程

	午　前	午　後
1　日　目		シンポジウム
2　日　目	講　　義	サブゼミ
3　日　目	講　　義	サブゼミ
4　日　目	談　話　会	

シンポジウム

木　村　初　男　先生　(福井工業大学)

「固いモノから柔らかいモノへ　— 液晶物理・昨日・今日・明日 —」

講　　義　　塙　田　　捷　先生　(東大・理・物理)

「原子スケール系の世界」

太　田　隆　夫　先生　(お茶大・物理)

「界面ダイナミクス」

高　木　英　典　先生　(東大・物性研)

「強相関電子系とその高温超伝導」

武　田　　定　先生　(阪大・理)

「固体NMRでみる結晶におけるダイナミクスと局所構造

　— 水素結合性結晶を中心として —」

石　原　照　也　先生(広大・工)

「光物性を制御する物質設計」

伊　澤　義　雅　先生(広大・工)

「メソスコピック系の物理」

-96-

定 員 300人

参 加 費 6,500円（当日8,000円）

宿 泊 費 一泊 7,000円

申込書請求締切 1996年6月15日

申込書請求・連絡先

〒464-01 名古屋市千種区不老町

名古屋大学理学研究科物質理学専攻S研究室

野尻秀和

電 話 052-789-2936

F A X 052-789-2928

E - mail: j45747a@nucc.cc.nagoya-u.ac.jp

主な大学には5月中に参加申込書を送付します。詳しくは、ホームページ

<http://www.eds.ecip.nagoya-u.ac.jp/~h956105d/TOPPage.html>

をご覧ください。なお、お問い合わせはなるべく郵便・E-mailにてお願いします。

編 集 後 記

物性研だよりの5月号をお届けいたします。物性研では、この4月に組織改革が行われました。時を同じくして、安岡新所長が誕生し、この号に就任の挨拶を掲載いたしました。竹内前所長には、在任の期間中、物性研の改組および柏移転計画に全力を注いで頂き、所員一同感謝いたしております。7月号には、新たに発足した部門の概要をお知らせいたします。

是非御一読ください。

なお、次号の原稿締切りは6月10日です。

所属、住所変更の場合等は事務部共同利用掛まで連絡願います。

後 藤 恒 昭

上 田 和 夫

